

第2章

要支援・要介護認定者と介護者の 生活と福祉に関する調査

第2節 要介護認定者/介護者 調査

1 調査の概要

(1) 目的

要介護認定者と介護者の健康や生活の状況、医療・介護・福祉等に関するニーズ、介護保険制度に対する評価等を把握し、次期介護保険事業計画等の施策立案に資する基礎資料を得ることを目的とした。

(2) 調査対象者

令和元年（2019年）8月31日時点の要介護認定者のうち、各要介護度から200人ずつを無作為抽出した計1,000人を調査対象者とした。

(3) 調査方法

上記対象者の介護を主に担当している家族・親族（主介護者）に対して、訪問面接調査を実施した。介護を主に担当している家族・親族による回答が難しい場合は、調査対象者本人等に回答してもらった。

(4) 実施期間

令和元年（2019年）9月15日～11月17日

(5) 調査完了状況

調査完了数： 620票 回収率：62.0%

（要介護1：137、要介護2：136、要介護3：124、要介護4：108、要介護5：115）

調査不能理由： 本人・家族等の拒否 160、不在 131、転居 27、その他 62

(6) 結果の集計に関する注意点

本調査では、要介護度ごとの傾向を把握するために、人数が少ない要介護度においても一定の有効回収数が得られるよう、全認定者における各要介護度の人数比率とは異なる標本数を割り当てて調査対象者を抽出した（各要介護度から200人ずつを抽出）。そのため集計にあたっては、要介護度ごとの回答結果が、実際の母集団（令和元年8月31日時点の認定者）の人数比率に応じて全体の結果に反映されるように、ウェイト値を乗じた標本数で集計している（ウェイトバック集計）。

- ウェイト値の算出方法

ウェイト値＝(各介護度の認定者数÷各介護度の完了数)×(完了者総数÷認定者総数)

- ウェイト値を乗じた(ウェイトバック)後の標本数は、要介護1：207人、要介護2：157人、要介護3：92人、要介護4：85人、要介護5：79人である。

(注) ウェイト値は少数第7位まで算出した。ウェイト値が整数でないため、ウェイトバック後の標本数も小数点以下を四捨五入している。そのため、集計によっては総数と合わない場合がある。

	認定者数 (8/31時点)	標本数	完了数	認定者数 完了数	ウェイト値	ウェイトバック 後の標本数
要介護 1	1,729	200	137	12.6204380	1.5152346	207
要介護 2	1,305	200	136	9.5955882	1.1520652	157
要介護 3	765	200	124	6.1693548	0.7407049	92
要介護 4	710	200	108	6.5740741	0.7892963	85
要介護 5	655	200	115	5.6956522	0.6838312	79

注) 認定者数は、特別養護老人ホーム入居者を除外した人数を示している。

【集計を見る際の注意事項】

- 「n」は、回答者数を表す。
- 集計にあたっては、要介護度ごとにウェイトをつけたウェイトバック集計を行っている。上述のように、ウェイト値は整数でないため、ウェイトバック後の標本数も小数点以下を四捨五入した値となっている。そのため、集計によっては総数と合わない場合がある。
- 調査結果の回答比率(%)は、ウェイトバック集計後の数値である。
- 複数回答（2つ以上回答を選んでもよい設問）の場合は（複数回答）と記すが、特に記載のない場合は、単数回答（1つだけ回答を選ぶ設問）である。
- 回答比率(%)は小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示している。そのため、単数回答であっても、合計が100.0%にならない場合がある。
- 複数回答の場合は、合計が100.0%を超える場合がある。
- 表やグラフでは、表示の都合上、調査票の選択肢の文言を簡略化しているものもある。
- 属性別のクロス集計結果は、回答者の属性が不明な場合は除外して表示しているため、属性別の人数の合計が回答者の総数と一致しない場合がある。

2 回答者、要介護認定者の属性

問1 あなた(回答者)は、〇〇さん(要介護認定者)のお世話や家事を「主にしている人」ですか、「手伝っている人」ですか。それとも、それ以外の人ですか。

(本人ではない人が回答している場合)

問2 あなたは、〇〇さんからみて、どなたにあたりますか。

(家族・親族が回答している場合)

問3 回答者の性別

「主介護者（お世話を主にしている人）」による回答が69.8%であった。本人ではない人が回答している場合は、「配偶者」による回答が38.7%と最多であった。

回答者

	人数	主にしている人	手伝っている人	本人	それ以外
総数	620	69.8%	4.4%	21.1%	4.7%
要介護1	207	58.2%	2.4%	37.0%	2.4%
要介護2	157	71.3%	3.2%	24.2%	1.3%
要介護3	92	76.9%	5.5%	12.1%	5.5%
要介護4	85	76.7%	8.1%	4.7%	10.5%
要介護5	79	82.1%	6.4%	1.3%	10.3%

(本人ではない人が回答している場合) 本人からみた回答者の続柄

	人数	配偶者	息子 配偶者 あり	息子 配偶者 なし	娘 配偶者 あり	娘 配偶者 なし	嫁	婿
総数	489	38.7%	8.6%	9.2%	12.5%	13.5%	8.4%	1.2%
要介護1	132	35.6%	10.6%	6.8%	11.4%	12.9%	10.6%	2.3%
要介護2	117	52.1%	7.7%	8.5%	8.5%	12.0%	6.8%	0.9%
要介護3	81	30.9%	14.8%	9.9%	14.8%	12.3%	11.1%	1.2%
要介護4	83	37.3%	3.6%	9.6%	16.9%	13.3%	7.2%	0.0%
要介護5	76	32.9%	5.3%	13.2%	13.2%	18.4%	5.3%	1.3%
	人数	孫	孫の 配偶者	兄弟姉妹	その他の 親族	ホーム ヘルパー	ケアマネ ジャー	その他
総数	489	0.4%	0.0%	2.9%	1.4%	0.2%	1.2%	1.8%
要介護1	132	0.0%	0.0%	6.1%	1.5%	0.0%	0.0%	2.3%
要介護2	117	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.9%	0.9%
要介護3	81	1.2%	0.0%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	1.2%
要介護4	83	0.0%	0.0%	2.4%	2.4%	1.2%	2.4%	3.6%
要介護5	76	1.3%	0.0%	2.6%	1.3%	0.0%	3.9%	1.3%

注) 要介護認定者本人ではない人が回答している場合に限定した。

(家族・親族が回答している場合) 回答者の性別

	人数	男性	女性
総数	471	35.0%	65.0%
要介護1	127	34.6%	65.4%
要介護2	116	39.7%	60.3%
要介護3	79	36.7%	63.3%
要介護4	76	28.9%	71.1%
要介護5	73	32.9%	67.1%

注) 家族・親族が回答している場合に限定した。

問4 要介護認定者の性別

問5 要介護認定者の年齢

要介護認定者の性別は、「女性」が62.8%であった。平成25年・平成28年の調査では、「女性」の割合はどちらも67.4%であったので、今回の調査では、女性の割合は減少し、男性の割合が増加していた。

年齢は「80歳以上」が73.6%であった。「80歳以上」の割合は、平成25年は71.8%、平成28年は74.3%であったので、概ね同程度で推移していた。

要介護認定者の性別

	人数	男性	女性
総数	620	37.2%	62.8%
要介護1	207	33.7%	66.3%
要介護2	157	39.7%	60.3%
要介護3	92	38.0%	62.0%
要介護4	85	37.2%	62.8%
要介護5	79	40.5%	59.5%

要介護認定者の年齢階級

	人数	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
総数	620	5.5%	7.6%	13.3%	15.6%	27.0%	31.0%
要介護1	207	6.7%	5.7%	9.6%	18.2%	30.6%	29.2%
要介護2	157	6.4%	8.9%	24.8%	14.0%	22.3%	23.6%
要介護3	92	3.3%	7.6%	7.6%	14.1%	25.0%	42.4%
要介護4	85	3.5%	3.5%	10.6%	15.3%	32.9%	34.1%
要介護5	79	5.1%	13.9%	10.1%	13.9%	22.8%	34.2%

問6 現在、〇〇さん(要介護認定者)が生活されている場所はどこですか。
(グループホーム、病院、老人保健施設、特別養護老人ホームに入所している場合)

副問1 今後、元のお住まいに戻る予定はありますか。

副問2 ご自宅から施設や病院に移られてから、どれくらい経ちますか。転院や転所を経験されている場合は、最初に施設や病院に入ってからどれくらい経ったかお答えください。

居住場所は「自宅(親戚宅も含む)」が75.1%と最多で、次いで「有料老人ホーム」が9.1%であった。「自宅」の割合は、平成25年は74.1%、平成28年は78.3%で、概ね同程度であった。

グループホーム、病院、老人保健施設、特別養護老人ホームに入所している人に、元の住まいに戻る予定を質問したが、戻る予定は「ない」が71.4%で、要介護2以上では7~8割が元の住まいに戻る予定がないと答えていた。入院・入所している人の55.4%は最初に入院・入所していから「1年以上」経過していた。

要介護認定者の居住場所

	人数	自宅 (親戚宅を含む)	有料老人 ホーム	病院	老人保健 施設	特別養護 老人ホーム	その他
総数	620	75.1%	9.1%	4.2%	5.2%	2.4%	4.0%
要介護1	207	92.3%	4.3%	0.0%	1.0%	1.4%	1.0%
要介護2	157	85.4%	7.6%	1.3%	3.8%	0.0%	1.9%
要介護3	92	66.3%	12.4%	1.1%	11.2%	1.1%	7.9%
要介護4	85	51.2%	15.1%	7.0%	9.3%	9.3%	8.1%
要介護5	79	44.9%	14.1%	21.8%	7.7%	3.8%	7.7%

注)「その他」は、高齢者向け賃貸住宅、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、ケアハウス、グループホームである。

(グループホーム、病院、老人保健施設、特別養護老人ホームに入所している場合)

元の住まいに戻る予定

	人数	ある	ない	わからない
総数	98	10.2%	71.4%	18.4%
要介護1	11	45.5%	27.3%	27.3%
要介護2	10	10.0%	80.0%	10.0%
要介護3	20	5.0%	65.0%	30.0%
要介護4	29	6.9%	82.8%	10.3%
要介護5	28	3.6%	78.6%	17.9%

最初に施設や病院に入ってから年数

	人数	3ヶ月未満	3~6ヶ月 未満	6ヶ月~ 1年未満	1年以上	無回答
総数	98	11.9%	11.9%	12.9%	55.4%	7.9%

問7 一緒に住んでいるご家族は、〇〇さん(要介護認定者)を含めて何人ですか。
 問8 一緒に住んでいる人すべてについて、〇〇さんからみた続柄を教えてください。
 (複数回答)

要介護認定者の世帯員数は、「2人」が最多で40.6%、次いで「3人以上」が31.1%であったが、「1人」の人も28.3%みられた。同居者は、「配偶者」が39.9%と最多で、次いで「息子(未婚)」12.8%、「娘(未婚)」12.7%であった。

上記の情報に基づき分類した世帯構成は、「単身世帯」が28.3%、「夫婦二世帯」が26.8%であった。「単身世帯」の割合は、平成25年の調査では18.9%、平成28年は26.6%であったので、要介護状態であるにも関わらず単身世帯の人が、経年的に増加していた。「夫婦二世帯」の割合は、平成25年は22.0%、平成28年は23.8%であり、こちらも微増傾向であった。

要介護度別では、要介護1で「単身世帯」が34.3%と多く、要介護度が重くなるに従って、同居者の人数も増加する傾向がみられた。

世帯員数（本人も含む）

	人数	1人	2人	3人以上
総数	620	28.3%	40.6%	31.1%
要介護1	207	34.3%	34.8%	30.9%
要介護2	157	28.2%	48.7%	23.1%
要介護3	92	22.8%	40.8%	36.4%
要介護4	85	22.4%	43.4%	34.2%
要介護5	79	25.3%	36.7%	38.0%

同居者の続柄（複数回答）

	人数	配偶者	息子 (既婚)	息子 (未婚)	娘 (既婚)	娘 (未婚)	息子の 妻(嫁)	娘の夫 (婿)	孫	親	兄弟 姉妹	その他 親族	その他	同居者 なし
総数	620	39.9%	9.5%	12.8%	8.5%	12.7%	9.5%	7.6%	9.4%	0.2%	2.2%	2.1%	0.6%	28.3%

世帯構成

	人数	単身世帯	夫婦二世帯	子供と二人 世帯	二世代 (子と同居)	三世代 (子・孫と同居)	その他
総数	620	28.3%	26.8%	12.0%	20.4%	9.2%	3.4%
要介護1	207	34.3%	22.7%	9.7%	18.8%	10.1%	4.3%
要介護2	157	28.2%	35.9%	10.9%	16.7%	5.1%	3.2%
要介護3	92	22.8%	23.9%	14.1%	20.7%	14.1%	4.3%
要介護4	85	22.4%	29.4%	12.9%	23.5%	9.4%	2.4%
要介護5	79	25.3%	20.3%	16.5%	27.8%	8.9%	1.3%

3 介護・医療ニーズ

(1) 身体機能障害

- 問 9 歩行は普通にできますか。
 問 10 食事をするのに手助けが必要ですか。
 問 11 着替えは普通にできますか。
 問 12 入浴は普通にできますか。
 問 13 排泄の手助けは必要ですか。

「歩行」「食事」「着替え」「入浴」「排泄」の5項目の日常生活動作（ADL）について、介助を必要とする人の割合を調べた。介助を必要とする人の割合が最も高かったのは「入浴」で、「一部介助が必要」「全面的に介助が必要」を合わせると69.6%が入浴に介助を要する状態であった。特に要介護5では、99.2%が入浴に介助を要していた。入浴以外のADL項目で一部または全面的に介助を要する人の割合は、「歩行」54.7%、「食事」17.4%、「着替え」40.0%、「排泄」39.6%であった。

平成25年・平成28年の調査で、一部または全面的な介助を要する人の割合は、「歩行」が55.5%と55.0%、「食事」が22.3%と21.1%、「着替え」が47.7%と42.6%、「入浴」が70.6%と65.9%、「排泄」が44.7%と42.5%であった。「食事」「着替え」「排泄」で一部または全面的に介助が必要な人の割合が減少しており、「歩行」と「入浴」は、概ね同程度で推移していた。

全ての項目について、要介護度が重くなるほど、「一部介助/全面介助」の割合が高くなっていた。特に要介護3以上で、介助を要する人が顕著に増加していた。

歩行

	人数	ひとりで歩ける (杖などは使わない)	杖などがあれば、ひとりで歩ける	物につかまれば歩ける 介助されれば歩ける (一部介助)	ほとんど歩けない、まったく歩けない (全面介助)	無回答
総数	620	24.5%	20.7%	29.3%	25.4%	0.1%
要介護1	207	37.2%	28.5%	32.1%	2.2%	0.0%
要介護2	157	33.8%	27.9%	27.9%	10.3%	0.0%
要介護3	92	10.5%	17.7%	41.1%	30.6%	0.0%
要介護4	85	9.3%	8.3%	27.8%	53.7%	0.9%
要介護5	79	5.2%	2.6%	12.2%	80.0%	0.0%

食事

	人数	ひとりで普通に食べられる	調理を工夫したり、スプーンなどを使えばひとりで食べられる	食べる時に一部手助けが必要	全面的に介助して食べさせてもらっている（経管栄養などを含む）	無回答
総数	620	69.3%	12.9%	6.7%	10.7%	0.3%
要介護1	207	90.5%	8.0%	1.5%	0.0%	0.0%
要介護2	157	84.6%	8.1%	4.4%	2.2%	0.7%
要介護3	92	66.1%	19.4%	6.5%	8.1%	0.0%
要介護4	85	44.5%	23.1%	17.6%	13.9%	0.9%
要介護5	79	13.9%	16.5%	13.9%	55.7%	0.0%

着替え

	人数	普通にできる	ひとりでなんとかできるが、時間がかかる	ボタンかけなど一部手伝いが必要	全面的に介助が必要	無回答
総数	620	37.7%	22.0%	17.4%	22.6%	0.3%
要介護1	207	58.4%	29.9%	9.5%	2.2%	0.0%
要介護2	157	50.7%	26.5%	18.4%	3.7%	0.7%
要介護3	92	22.6%	24.2%	27.4%	25.8%	0.0%
要介護4	85	12.0%	11.1%	29.6%	46.3%	0.9%
要介護5	79	2.6%	1.7%	11.3%	84.4%	0.0%

入浴

	人数	普通に入れる	ひとりでなんとか入れる	浴槽の出入りや体を洗うのに一部介助が必要	全面的に介助が必要、または入浴できないので体を拭くのみ	無回答
総数	620	16.6%	13.3%	29.0%	40.6%	0.6%
要介護1	207	30.7%	24.1%	35.0%	9.5%	0.7%
要介護2	157	21.3%	14.0%	35.3%	28.7%	0.7%
要介護3	92	2.4%	9.7%	33.1%	54.8%	0.0%
要介護4	85	3.7%	1.9%	18.5%	75.0%	0.9%
要介護5	79	0.9%	0.0%	7.0%	92.2%	0.0%

排泄

	人数	普通に できる	ひとりで なんとか できる	一部介助が 必要	全面的に 介助が必要	無回答
総数	620	38.2%	21.9%	16.4%	23.2%	0.3%
要介護 1	207	59.9%	29.2%	8.8%	2.2%	0.0%
要介護 2	157	52.2%	28.7%	11.0%	7.4%	0.7%
要介護 3	92	24.2%	18.6%	32.3%	25.0%	0.0%
要介護 4	85	7.4%	11.1%	34.3%	46.3%	0.9%
要介護 5	79	2.6%	4.3%	9.6%	83.5%	0.0%

問 14 部屋の掃除はできますか。

問 15 洗濯はできますか。

問 16 食事のしたくはできますか。

問 17 買い物はできますか。

「部屋の掃除」「洗濯」「食事のしたく」「買い物」といった4項目の手段的日常生活動作（IADL）について、介助を必要とする人の割合を調べた。全ての項目について8割程度の人が一部または全面的に介助を必要としており、特に「買い物」は一部または全面的な介助を要する人が87.1%と最多であった。

平成25年・平成28年の調査でも、8割の人がこれらのIADL項目に一部または全面的に介助を必要としており、特に「買い物」では9割弱が介助を要する状態で、今回の調査も同様の結果であった。

要介護度が重くなるに従って介助を要する人は増え、要介護5では、ほとんどの人が全てのIADL項目について「全面的に手助けが必要」な状態であった。

部屋の掃除

	人数	できる	できるけど していない	一部手助け が必要	全面的に 手助けが必要	無回答
総数	620	8.5%	9.8%	13.2%	68.1%	0.4%
要介護 1	207	14.6%	16.8%	19.7%	48.9%	0.0%
要介護 2	157	11.0%	10.3%	17.6%	61.0%	0.0%
要介護 3	92	4.0%	4.8%	11.3%	78.2%	1.6%
要介護 4	85	1.9%	2.8%	2.8%	91.7%	0.9%
要介護 5	79	0.0%	3.5%	0.9%	95.7%	0.0%

洗濯

	人数	できる	できるけど していない	一部手助け が必要	全面的に 手助けが必要	無回答
総数	620	12.4%	7.4%	11.7%	68.1%	0.4%
要介護1	207	22.6%	11.7%	17.5%	48.2%	0.0%
要介護2	157	15.4%	8.1%	15.4%	61.0%	0.0%
要介護3	92	4.0%	4.0%	7.3%	83.1%	1.6%
要介護4	85	1.9%	2.8%	5.6%	88.9%	0.9%
要介護5	79	0.9%	3.5%	0.9%	94.8%	0.0%

食事のしたく

	人数	できる	できるけど していない	一部手助け が必要	全面的に 手助けが必要	無回答
総数	620	10.8%	5.5%	13.2%	69.8%	0.7%
要介護1	207	19.7%	8.0%	17.5%	54.7%	0.0%
要介護2	157	13.2%	5.9%	22.8%	57.4%	0.7%
要介護3	92	4.0%	4.0%	7.3%	83.1%	1.6%
要介護4	85	1.9%	2.8%	2.8%	90.7%	1.9%
要介護5	79	0.0%	2.6%	0.9%	96.5%	0.0%

買い物

	人数	できる	できるけど していない	一部手助け が必要	全面的に 手助けが必要	無回答
総数	620	7.8%	4.8%	12.3%	74.8%	0.4%
要介護1	207	14.6%	5.8%	22.6%	56.9%	0.0%
要介護2	157	9.6%	7.4%	14.0%	69.1%	0.0%
要介護3	92	0.8%	3.2%	4.8%	89.5%	1.6%
要介護4	85	1.9%	1.9%	2.8%	92.6%	0.9%
要介護5	79	0.9%	1.7%	0.9%	96.5%	0.0%

問 18 ふだんの生活の様子は、次のうちのどれに一番近いですか。

「まったくの寝たきり」7.1%、「ほとんど寝たきり」7.7%、「日中は寝たり起きたりで、身の回りのこともほとんどできない」18.7%と、身の回りのことがほとんどできず、寝たきりか、それに近い状態の人が、33.5%を占めていた。特に要介護5では、62.7%が「まったくの寝たきり」か「ほとんど寝たきり」であった。

日常生活動作（ADL）の5項目と「ふだんの生活の様子」の回答状況に基づいて身体的な障害の重症度を分類した結果、「障害なし」が21.0%、「軽度」25.0%、「中等度」20.5%、「重度」33.1%であった。要介護5では、身体的な障害が「重度」の人が90.4%を占めた。

身体的な障害が「重度」の割合は、平成25年は35.9%、平成28年は35.2%で、今回も同様の結果であった。

普段の生活の様子

	人 数	自分 でバス、電 車を 使っ て外 に出 るこ とを 、 そ れ 以 上 に 活 発 な い	家 庭 内 で 自 分 の こ と は で き る が、 外 出 は し な い	家 の 外 に は 出 な い が、 身 の 回 り の こ と は し な い	身 の 回 り の こ と は し な い が、 日 中 も 寝 た り 起 き た り で し な い	日 中 は 寝 た り 起 き た り で、 身 の 回 り の こ と も し な い	ほ と ん ど 寝 た き り	ま っ た く の 寝 た き り	無 回 答
総数	620	7.8%	21.1%	20.9%	15.7%	18.7%	7.7%	7.1%	1.0%
要介護1	207	16.1%	35.8%	21.2%	19.7%	5.8%	0.7%	0.0%	0.7%
要介護2	157	6.6%	28.7%	29.4%	16.9%	13.2%	2.9%	0.7%	1.5%
要介護3	92	3.2%	7.3%	28.2%	16.1%	29.8%	12.1%	3.2%	0.0%
要介護4	85	0.9%	3.7%	12.0%	16.7%	39.8%	11.1%	13.9%	1.9%
要介護5	79	0.9%	2.6%	4.3%	0.9%	27.8%	27.0%	35.7%	0.9%

身体的障害の重症度

	人数	障害なし	軽度	中等度	重度	不明
総数	620	21.0%	25.0%	20.5%	33.1%	0.3%
要介護1	207	39.4%	40.1%	16.8%	3.7%	0.0%
要介護2	157	24.3%	30.1%	28.7%	16.2%	0.7%
要介護3	92	8.1%	16.1%	25.8%	50.0%	0.0%
要介護4	85	2.8%	8.3%	23.1%	64.8%	0.9%
要介護5	79	0.9%	3.5%	5.2%	90.4%	0.0%

注）重症度の分類方法は、次ページの表【身体的障害の重症度分類の基準】を参照

● 身体的障害の重症度分類の基準

重 度	次の1項目以上に該当する。 歩行……………ほとんど歩けない、まったく歩けない 食事……………全面的に介助(経管栄養を含む) 排泄……………全面的に介助が必要(常時おむつをしている場合を含む) 日常生活状態…ほとんど寝たきり、あるいは、まったくの寝たきり
中 度	「重度」以外で、次の1項目以上に該当する。 食事……………食べる時に一部手助けが必要 着替え……………全面的に介助 入浴……………全面的に介助を必要とするか、入浴できないので体を拭くのみ 排泄……………便器に腰かける時、または便器の用意・後片づけ等に一部介助が必要 日常生活状態…日中は寝たり起きたりで、身の回りのこともほとんどできない
軽 度	「重度」「中度」以外で、次の1項目以上に該当する。 歩行……………物につかまれば歩ける、介助されれば歩ける 食事……………食べる時に一部手助けが必要 着替え……………ボタンかけなど、一部手伝わなければ着替えられない 入浴……………浴槽の出入りや体を洗うのに一部介助が必要 日常生活状態…身の回りのことは何とかできるが、日中でも寝たり起きたりの生活である
な し	上記の項目のいずれにも該当しない

注) 分類基準の出典は、『高齢者の家族介護と介護サービスニーズ』東京都老人総合研究所社会福祉部門編(1996)を参照

(2) 認知機能障害

問 19 この1ヵ月の間に、ご本人に次のようなことが見られましたか。

((1)～(16)について1つずつ質問)

- (1) 自分の年齢がわからないことが多い
- (2) 慣れている場所でも、ときに道を間違えることがある
- (3) 子どもの住んでいる都道府県、あるいは市町村がわからない
- (4) 今住んでいる所を自分の家だと思っていないことがある
- (5) 同居している子どもやその配偶者を他人と間違えることがある
- (6) 直前に食べた食事を、食べていないということがある
- (7) 食べられるものは手あたりしだい食べてしまう
- (8) 特に理由なく入浴や着替えを嫌がる
- (9) 家の中でも洗面所の場所がわからないことがある
- (10) 子どもの人数をきちんと答えられないことがある
- (11) 家の中で目的なく歩き回ることが目立つ
- (12) 鏡に映っている自分に話しかけることがある
- (13) 理由なく夜起きて騒ぐ
- (14) 一日中とりとめのないことをしゃべっている
- (15) 同じ動作を何回も繰り返す
- (16) 食べ物でないものを口の中に入れてしまう

認知機能障害の程度を調べる16項目について、該当者が多かった項目は、「自分の年齢がわからないことが多い」29.9%、「子どもの住んでいる都道府県、あるいは市町村がわからない」22.2%、「慣れている場所でも、ときに道を間違えることがある」18.6%、「今住んでいる所を自分の家だと思っていないことがある」17.1%、「直前に食べた食事を、食べていないということがある」16.3%、「子どもの人数をきちんと答えられないことがある」15.6%であった。

この16項目を基に認知機能障害の重症度^(注)を分類した結果、「認知機能障害なし」が56.5%、「軽度」15.1%、「中等度」19.6%、「重度」7.8%であった。

認知機能障害が「中等度」または「重度」の割合は、平成25年は34.5%、平成28年は29.3%で、今回は27.5%であることから、経年的に減少する傾向にあった。

要介護度が重くなるほど認知機能障害が重い人の割合が増え、要介護5では5割強が「中等度」または「重度」の認知機能障害を有していた。

注) 要介護認定者/介護者調査の調査票の問19を使用した。16項目中、「該当項目なし」＝認知機能障害なし、「1～2項目該当」＝軽度、「3～7項目該当」＝中等度、「8項目以上該当」＝重度、とした。(出典:『高齢者の家族介護と介護サービスニーズ』東京都老人総合研究所社会福祉部門編, 1996)

認知機能障害

	人数	自分の年齢がわからないことが多い	慣れている場所でもときに道を間違えることがある	子どもの住んでいる都道府県あるいは市町村がわからない	今住んでいる所を自分の家だと思っていないことがある	同居している子どもやその配偶者を他人と間違えることがある	直前に食べた食事を食べていないということがある	食べられるものは手あたりしだい食べてしまう	特に理由なく入浴や着替えを嫌がる
総数	620	29.9%	18.6%	22.2%	17.1%	11.0%	16.3%	5.5%	11.7%
要介護1	207	15.3%	12.4%	9.5%	5.1%	3.7%	8.0%	2.2%	5.1%
要介護2	157	20.6%	15.4%	14.7%	11.8%	3.7%	14.0%	5.1%	12.5%
要介護3	92	34.7%	22.6%	30.6%	21.0%	9.7%	24.2%	6.5%	15.3%
要介護4	85	50.9%	26.9%	35.2%	28.7%	23.1%	25.0%	8.3%	15.7%
要介護5	79	58.3%	27.8%	47.0%	42.6%	33.0%	24.4%	10.4%	19.1%
	人数	家の中でも洗面所の場所がわからないことがある	子どもの人数をきちんと答えられないことがある	家の中で目的なく歩き回ることが目立つ	鏡に映っている自分に話しかけることがある	理由なく夜起きて騒ぐ	一日中とりとめのないことをしゃべっている	同じ動作を何回も繰り返す	食べ物でないものを口の中に入れてしまう
総数	620	9.2%	15.6%	5.1%	2.3%	7.3%	8.1%	11.6%	2.7%
要介護1	207	0.0%	5.8%	2.9%	0.7%	2.9%	4.4%	5.1%	0.0%
要介護2	157	5.9%	10.3%	3.7%	1.5%	5.9%	5.2%	11.0%	2.2%
要介護3	92	16.9%	21.0%	8.1%	0.8%	8.9%	8.1%	14.5%	1.6%
要介護4	85	18.5%	29.6%	6.5%	5.6%	13.9%	13.9%	14.8%	3.7%
要介護5	79	20.9%	30.4%	8.7%	6.1%	13.0%	17.4%	22.6%	11.3%

認知症重症度

	人数	なし	軽度	中等度	重度	不明
総数	620	56.5%	15.1%	19.6%	7.8%	1.0%
要介護1	207	74.4%	13.1%	8.8%	2.9%	0.7%
要介護2	157	61.8%	14.7%	18.4%	3.7%	1.5%
要介護3	92	50.8%	14.5%	22.6%	12.1%	0.0%
要介護4	85	33.3%	21.3%	30.6%	13.0%	1.9%
要介護5	79	30.4%	14.8%	35.7%	18.3%	0.9%

注) 認知機能障害の重症度の分類は、『高齢者の家族介護と介護サービスニーズ』東京都老人総合研究所社会福祉部門編(1996)に基づいて分類した。

(3) 認知症の診断と問題

問 20 医師から認知症と診断されていますか。

(診断を受けている場合)

副問 1 どのような種類の認知症と診断されましたか。

副問 2 ご本人の変化に気づいてから認知症の診断までに、どれくらいの期間かかりましたか。

副問 3 認知症と診断されるまでに、次のような問題がありましたか。

((1)～(9)について1つずつ質問)

(1) ご本人が病院に行きたがらなかった

(2) ご家族が認知症と思わなくて、受診が遅れた

(3) ご家族が認知症と診断されるのが怖くて、受診が遅れた

(4) ご家族が精神科やもの忘れ外来を受診することに精神的に抵抗があり受診が遅れた

(5) どの病院や診療科を受診すればよいのか、わからなかった

(6) 病院の予約がなかなか取れなかった

(7) 最初に受診した医療機関では適切な診断をしてもらえなかった

(8) 相談できる人がいなかった

(9) その他に、認知症と診断されるまでに何か問題がありましたら教えてください

認知症の診断を受けていた人は 31.4%で、平成 28 年の調査 (32.8%) と同程度であった。要介護度が重くなるほど、その割合は高くなり、要介護 5 では 52.2%が認知症の診断を受けていた。認知症の種類では、「アルツハイマー型認知症」が 43.3%と最多であった。「その他」の中には複合型が含まれるが、その割合も 3 割程度と高かった。

変化に気づいてから認知症と診断されるまでの期間は、「3 年以上」が 26.5%と最多で、半数以上の人の変化に気づいてから診断を受けるまでに「1 年以上」を要していた。要介護度が重くなるに従って診断までに時間がかかる傾向がみられ、要介護 5 では半数近くが認知症の診断までに「3 年以上」かかっていた。

認知症と診断されるまでに経験した問題は、「本人が病院に行きたがらなかった」が 18.2%と最多であったが、平成 28 年の結果 (24.8%) より、この割合は若干減少していた。次いで「家族が認知症と思わなくて受診が遅れた」が 17.8%で、これも平成 28 年の結果 (23.4%) より減少していた。

医師による認知症の診断

	人数	受けている	受けていない	無回答
総数	620	31.4%	68.3%	0.2%
要介護 1	207	16.1%	83.9%	0.0%
要介護 2	157	25.7%	74.3%	0.0%
要介護 3	92	44.4%	54.8%	0.8%
要介護 4	85	46.3%	52.8%	0.9%
要介護 5	79	52.2%	47.8%	0.0%

副問 1～3 へ

(診断を受けている場合) 認知症の種類

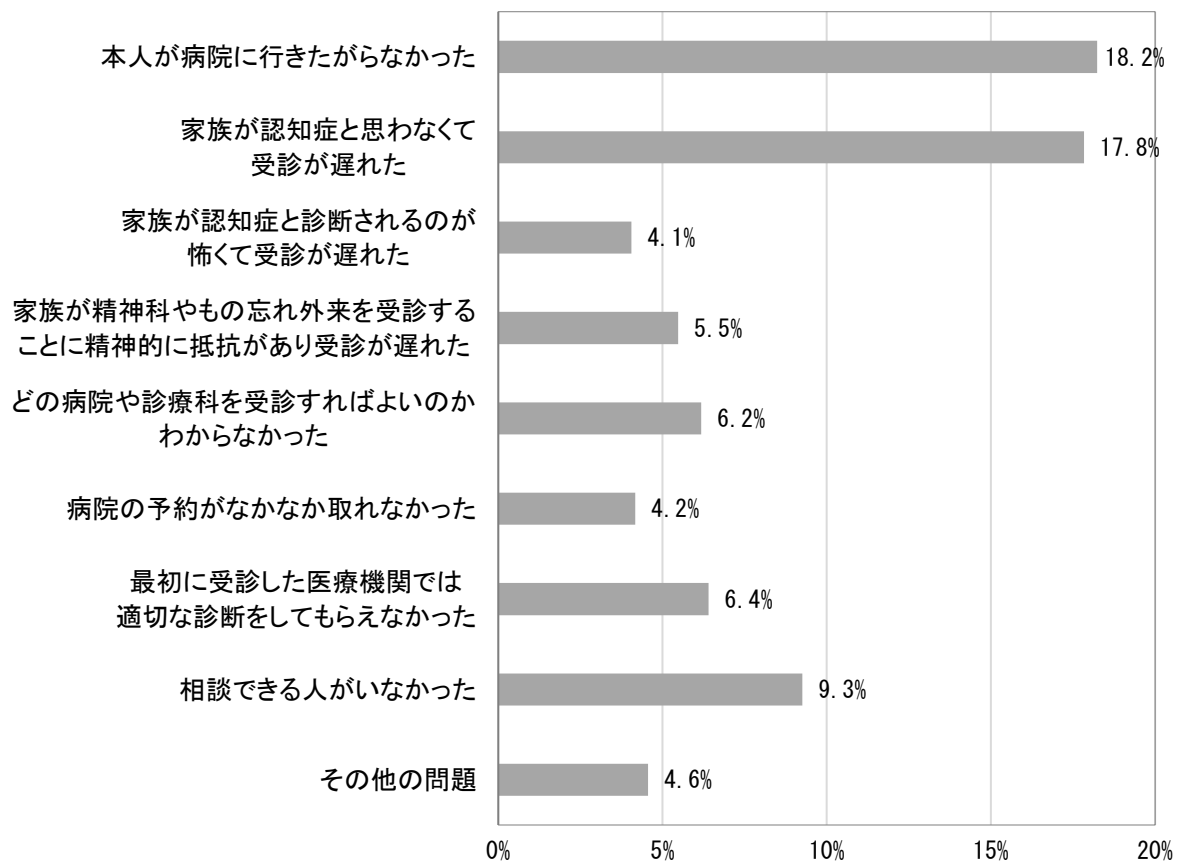
	人数	脳血管性 認知症	アルツハイマー 型認知症	レビー小体型 認知症	その他	無回答
総数	195	16.4%	43.3%	6.5%	32.5%	1.3%
要介護1	33	13.6%	36.4%	9.1%	40.9%	0.0%
要介護2	40	14.3%	54.3%	5.7%	22.9%	2.9%
要介護3	41	18.2%	40.0%	3.6%	36.4%	1.8%
要介護4	40	12.0%	48.0%	6.0%	34.0%	0.0%
要介護5	41	23.3%	36.7%	8.3%	30.0%	1.7%

注) 医師から認知症と診断された人に質問した。

(診断を受けている場合) 変化に気づいてから認知症と診断されるまでの期間

	人数	3ヵ月 未満	3ヵ月以上 6ヵ月未満	6ヵ月以上 1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年 以上	無回答
総数	195	14.9%	11.6%	11.6%	16.2%	13.5%	26.5%	5.7%
要介護1	33	13.6%	27.3%	18.2%	13.6%	18.2%	9.1%	0.0%
要介護2	40	17.1%	5.7%	8.6%	34.3%	14.3%	8.6%	11.4%
要介護3	41	20.0%	7.3%	10.9%	14.6%	9.1%	29.1%	9.1%
要介護4	40	10.0%	12.0%	10.0%	8.0%	22.0%	36.0%	2.0%
要介護5	41	13.3%	8.3%	11.7%	10.0%	5.0%	46.7%	5.0%

注) 医師から認知症と診断された人に質問した。



認知症と診断されるまでの問題 (n=195)

(4) 通院・受療状況

問 21 現在、通院や往診など医師の診察を定期的に受けていますか。(複数回答)

(通院、往診、入院・入所している場合)

副問 どのような病気やケガで医師の診察を受けていますか。(複数回答)

要介護認定者の通院・受療状況は、「通院」59.9%、「往診」21.5%、「入院・入所」19.1%、「医師の診察は受けていない」4.5%であった。平成25年・平成28年と比べると、「往診」の割合が増加していた(平成25年:11.7%、平成28年:12.0%)。要介護度が重くなるに従って「往診」「入院・入所」が増加し、要介護5では「入院・入所」が47.0%であった。

医師の診察を受けている病気やケガについては、「高血圧症」が43.2%と最も割合が高く、「その他」(27.3%)を除くと、「認知症」が24.4%と次に割合が高かった。

通院・受療状況(複数回答)

	人数	通院している	往診してもらっている	入院・入所している	医師の診察は受けていない
総数	620	59.9%	21.5%	19.1%	4.5%
要介護1	207	77.4%	11.7%	6.6%	7.3%
要介護2	157	74.3%	17.6%	8.8%	4.4%
要介護3	92	51.6%	26.6%	23.4%	4.0%
要介護4	85	32.4%	34.3%	38.0%	1.9%
要介護5	79	24.4%	35.7%	47.0%	0.9%

(通院、往診、入院・入所と回答した場合) 診察を受けている傷病名(複数回答)

	人数	高血圧症	糖尿病	脳卒中	心臓病	ガン	認知症	腎臓の 病気	呼吸器の 病気	膠原病 関節リウマチ
総数	591	43.2%	15.9%	16.9%	19.7%	10.0%	24.4%	6.6%	7.7%	2.7%
要介護1	192	54.3%	15.7%	13.4%	23.6%	12.6%	14.2%	7.1%	5.5%	1.6%
要介護2	150	41.5%	19.2%	16.9%	16.9%	11.5%	22.3%	6.9%	9.2%	4.6%
要介護3	88	46.2%	16.0%	12.6%	15.1%	7.6%	31.9%	7.6%	7.6%	2.5%
要介護4	83	33.3%	13.3%	23.8%	22.9%	5.7%	32.4%	6.7%	8.6%	2.9%
要介護5	78	26.3%	12.3%	22.8%	17.5%	7.9%	36.8%	3.5%	9.7%	1.8%
	人数	変形性 関節疾患	骨粗鬆症 脊柱管狭窄症	骨折 骨のひび	パーキン ソン病	難病	眼の 病気	耳鼻科 聴覚障害	その他	
総数	591	9.3%	19.9%	9.4%	5.0%	2.5%	15.0%	7.4%	27.3%	
要介護1	192	13.4%	24.4%	9.4%	2.4%	0.0%	15.7%	7.9%	31.5%	
要介護2	150	10.0%	18.5%	11.5%	6.2%	6.2%	18.5%	6.9%	25.4%	
要介護3	88	6.7%	21.9%	10.1%	6.7%	0.0%	11.8%	5.0%	20.2%	
要介護4	83	5.7%	18.1%	9.5%	6.7%	1.9%	12.4%	13.3%	21.9%	
要介護5	78	4.4%	11.4%	4.4%	5.3%	5.3%	13.2%	3.5%	34.2%	

注) 「通院している」「往診してもらっている」「入院・入所している」と答えた人に質問した。

(5) 医療処置

問22 現在、次のような医療処置が必要な状態ですか。(複数回答)

(何らかの医療処置が必要な場合)

副問1 医療処置は誰がしていますか。(複数回答)

副問2 医療処置に関して、どのように思われますか。((1)～(4)について1つずつ質問)

- (1) 家族が医療処置を行うのは精神的な負担が大きい
- (2) 現在、行っている医療処置がご本人にとって適切なのか不安に感じる
- (3) 医師・看護師は、家族に医療処置についてもっとくわしく説明してほしい
- (4) その他に、医療処置について問題に感じることはありませんでしたら教えてください

要介護認定者の15.1%は何らかの医療処置が必要な状態で、特に要介護5では4割が何らかの医療処置を要していた。要介護5では、「胃ろう・腸ろう」が18.3%と最多で、次いで「吸引器」13.0%、「床ずれの処置」12.2%であった。

医療処置を行っているのは、「入院・入所先の医師・看護師」が37.5%と最多で、次いで「家族」31.6%、「本人」30.1%であった。

「家族が医療処置を行うのは精神的な負担が大きい」に「そう思う/まあそう思う」という人は44.1%、「現在、行っている医療処置が本人にとって適切なのか不安に感じる」は16.5%、「医師・看護師は、家族に医療処置についてもっとくわしく説明してほしい」は15.8%であった(いずれも「そう思う」「まあそう思う」の合計)。

医療処置が必要な状態 (複数回答)

	人数	床ずれ	栄養 経鼻 経管	腸胃 ろう ・	吸引 器	酸素 療法	気管 切開	自己 注射	人工 透析	自己 導尿	膀胱 カテ テル	その他	なし 医療 処置
総数	620	3.3%	0.5%	3.4%	2.3%	1.6%	0.5%	1.7%	1.4%	1.4%	1.6%	3.2%	84.9%
要介護1	207	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	1.5%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	97.1%
要介護2	157	2.2%	0.0%	0.7%	0.7%	2.2%	0.0%	2.9%	0.7%	2.9%	1.5%	5.1%	85.3%
要介護3	92	4.0%	0.0%	1.6%	2.4%	1.6%	0.8%	0.8%	1.6%	1.6%	0.8%	4.8%	83.9%
要介護4	85	4.6%	1.9%	4.6%	0.9%	1.9%	0.0%	0.9%	2.8%	0.0%	0.9%	4.6%	79.6%
要介護5	79	12.2%	1.7%	18.3%	13.0%	2.6%	2.6%	1.7%	2.6%	3.5%	7.8%	4.3%	59.1%

医療処置は誰がしているか (複数回答)

本人	家族	訪問看護師	往診医	通院先の 医師・看護師	入院・入所先の 医師・看護師	その他
30.1%	31.6%	18.0%	10.3%	20.4%	37.5%	3.5%

注) 医療処置が必要な状態を調べる項目(問22)に1つ以上該当した人(93人)を分析対象とした。

医療処置の問題

	そう思う	まあそう 思う	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない	不明 無回答
家族が医療処置を行うのは精神的な負担が大きい	28.3%	15.8%	18.7%	19.1%	18.0%
現在、行っている医療処置が本人にとって適切なのか不安に感じる	6.0%	10.5%	26.5%	42.6%	14.5%
医師・看護師は、家族に医療処置についてもっとくわしく説明してほしい	7.1%	8.7%	28.7%	44.5%	11.0%

注) 医療処置が必要な状態を調べる項目(問22)に1つ以上該当した人(93人)を分析対象とした。

4 介護保険・福祉サービスに関するニーズと評価

(1) 要介護認定

問 23 要介護認定の結果には、満足していますか。

認定結果には「非常に満足」が 29.6%、「わりと満足」が 50.4%で、要介護認定者の 8割が肯定的に評価していた。

「非常に満足」または「わりと満足」という回答は、平成 25 年の調査では 79.0%、平成 28 年は 78.4%で、今回の調査（80.0%）も同程度の水準で推移していた。

要介護 5 では、「非常に満足」「わりと満足」という評価が 9 割近くを占めた。

要介護認定結果の満足度

	人数	非常に満足	わりと満足	あまり満足していない	全然満足していない	無回答
総数	620	29.6%	50.4%	12.4%	2.5%	5.1%
要介護1	207	29.9%	51.8%	12.4%	1.5%	4.4%
要介護2	157	19.9%	57.4%	15.4%	2.9%	4.4%
要介護3	92	29.8%	50.0%	13.7%	2.4%	4.0%
要介護4	85	24.1%	49.1%	13.9%	5.6%	7.4%
要介護5	79	53.9%	34.8%	3.5%	0.9%	7.0%

(2) ケアマネジャー・ケアプラン

問 24 ホームヘルパーやデイサービスといった、さまざまな介護サービスを使えるようにしてくれるケアマネジャー（介護支援専門員）がいますか。

(いると回答した場合)

副問 1 ケアマネジャーとは、どのくらいの頻度で連絡を取り合っていますか。訪問と電話の合計で、お答えください。

副問 2 全体的にみて現在の担当ケアマネジャーの対応に、どの程度満足していますか。

要介護認定者のうち、ケアマネジャーがいると回答したのは 88.4%であった。

ケアマネジャーがいると回答した人に、ケアマネジャーと連絡を取り合う頻度を質問したところ、84.2%が「月に 1 回以上」と答えていた。

ケアマネジャーに対する全体的な満足度は、「非常に満足」49.5%、「わりと満足」39.0%と、9 割程度が肯定的な評価をしていた。要介護度による何らかの傾向はみられなかった。

以上の結果は、平成 25 年・平成 28 年の調査結果と同様の状況であった。

ケアマネジャーの有無

	人数	いる	いない	無回答
総数	620	88.4%	9.8%	1.8%
要介護 1	207	85.4%	13.1%	1.5%
要介護 2	157	95.6%	2.9%	1.5%
要介護 3	92	87.9%	10.5%	1.6%
要介護 4	85	86.1%	12.0%	1.9%
要介護 5	79	85.2%	11.3%	3.5%

副問 1、2 へ

(ケアマネジャーがいる場合) ケアマネジャーと連絡を取り合う頻度

	人数	月に 1 回以上	2、3 ヶ月に 1 回	年に 2、3 回	それより少ない	無回答
総数	548	84.2%	7.0%	1.7%	4.6%	2.5%
要介護 1	177	86.3%	5.1%	2.6%	5.1%	0.9%
要介護 2	150	90.8%	6.2%	0.8%	1.5%	0.8%
要介護 3	81	84.4%	7.3%	0.0%	3.7%	4.6%
要介護 4	73	73.1%	11.8%	3.2%	7.5%	4.3%
要介護 5	67	75.5%	8.2%	2.0%	8.2%	6.1%

注) ケアマネジャーがいると答えた人に質問した。

(ケアマネジャーがいる場合) ケアマネジャーに対する満足度

	人数	非常に満足	わりと満足	あまり満足していない	全然満足していない	無回答
総数	548	49.5%	39.0%	7.9%	0.4%	3.2%
要介護1	177	46.2%	44.4%	7.7%	0.0%	1.7%
要介護2	150	50.8%	35.4%	11.5%	0.0%	2.3%
要介護3	81	57.8%	36.7%	1.8%	0.0%	3.7%
要介護4	73	46.2%	34.4%	11.8%	0.0%	7.5%
要介護5	67	49.0%	40.8%	3.1%	3.1%	4.1%

注) ケアマネジャーがいると答えた人に質問した。

問25 介護保険サービスを利用する前には、サービスの利用計画、いわゆるケアプランを作成する必要があります。全体的にみて、今のケアプランにどの程度満足していますか。

ケアプランに対する満足度は、「非常に満足」33.4%、「わりと満足」45.9%と、8割程度が肯定的な評価をしていた。要介護度による何らかの傾向はみられなかった。

「非常/わりと満足」という回答は、平成25年の調査では79.0%、平成28年は75.4%であり、今回の調査(79.3%)も同様の状況であった。

ケアプランに対する満足度

	人数	非常に満足	わりと満足	あまり満足していない	全然満足していない	介護保険サービスを利用していない	無回答
総数	620	33.4%	45.9%	7.9%	1.1%	6.5%	5.2%
要介護1	207	35.0%	40.9%	8.8%	1.5%	10.2%	3.7%
要介護2	157	25.7%	57.4%	9.6%	0.7%	3.7%	2.9%
要介護3	92	44.4%	39.5%	4.0%	0.0%	5.6%	6.5%
要介護4	85	30.6%	46.3%	9.3%	0.9%	3.7%	9.3%
要介護5	79	34.8%	43.5%	5.2%	2.6%	6.1%	7.8%

(3) ショートステイ

問 26 ショートステイサービスをご存知でしたか。利用したことがありますか。

(利用したことがある場合)

副問 1 この1年間では、何回くらい利用しましたか。

副問 2 全体的にみて、ショートステイサービスにどの程度満足していますか。

副問 3 何回でも利用できるとしたら、今後、年に何回くらい利用したいですか。

また、制限がないならば、何日間まで利用したいですか。

(利用したことはない・知らなかった場合)

副問 4 現在、ショートステイを利用したいと思いますか。

(利用したい・利用を検討したい場合)

副副問 何回でも利用できるとしたら、今後、年に何回くらい利用したいですか。

また、制限がないならば、何日間まで利用したいですか。

要介護認定者のショートステイ利用率は、28.3%であった。平成25年は27.0%、平成28年は26.9%であり、今回も同程度の利用率で推移していた。要介護度が重くなるほど利用率は高くなり、要介護4・5では、4割強がショートステイを利用していた。

ショートステイ利用経験者の、この1年間における利用回数は、「0回」が41.0%、「1～5回」が32.6%であった。要介護度が重いほど、利用回数も増加する傾向がみられた。

ショートステイ利用経験者の満足度は、「非常に満足」が23.2%、「わりと満足」が42.1%で、65.3%が肯定的な評価をしていた。「非常に満足」または「わりと満足」という回答は、平成25年は72.9%、平成28年は74.9%であったので、今回は肯定的な評価が減少していた。「あまり満足していない」「全然満足していない」という回答は、要介護3～5で多い傾向がみられた。

ショートステイ利用経験者の利用希望回数は、年に「0回(希望しない)」が40.7%と最も割合が高かったが、年に「11回以上」という人も21.9%いた。1回あたりの利用希望日数も「0日」が40.7%と最多であったが、「1～5日」15.3%、「6～10日」17.9%と、1～10日の利用を希望する人も33.2%いた。

ショートステイ利用状況

	人数	かつて利用したことがある (現在利用中も含む)	知っていたが、 利用したことはない	知らなかった	無回答
総数	620	28.3%	63.5%	7.7%	0.6%
要介護1	207	16.8%	73.7%	9.5%	0.0%
要介護2	157	22.8%	66.2%	11.0%	0.0%
要介護3	92	34.7%	58.9%	5.6%	0.8%
要介護4	85	44.5%	48.1%	4.6%	2.8%
要介護5	79	44.4%	53.0%	1.7%	0.9%

副問1～3へ

副問4へ

(利用したことがあると回答した場合) この1年間のショートステイ利用回数(回/年)

	人数	0回	1～5回	6～10回	11回以上	無回答
総数	175	41.0%	32.6%	6.8%	19.2%	0.4%
要介護1	35	34.8%	52.2%	4.4%	8.7%	0.0%
要介護2	35	45.2%	32.3%	3.2%	19.4%	0.0%
要介護3	32	34.9%	39.5%	7.0%	18.6%	0.0%
要介護4	38	45.8%	22.9%	4.2%	27.1%	0.0%
要介護5	35	43.1%	17.6%	15.7%	21.6%	1.9%

(利用したことがあると回答した場合) ショートステイ満足度

	人数	非常に満足	わりと満足	あまり満足してない	全然満足してない	無回答
総数	175	23.2%	42.1%	14.1%	9.6%	11.0%
要介護1	35	34.8%	34.8%	8.7%	8.7%	13.1%
要介護2	35	16.1%	54.9%	9.7%	9.7%	9.7%
要介護3	32	25.6%	41.9%	11.6%	16.3%	4.6%
要介護4	38	18.7%	39.6%	16.7%	6.3%	18.7%
要介護5	35	21.6%	39.2%	23.5%	7.9%	7.9%

(利用したことがあると回答した場合) ショートステイ利用希望回数(回/年)

	人数	0回	1～5回	6～10回	11回以上	何回でも	無回答
総数	175	40.7%	19.7%	3.4%	21.9%	9.9%	4.4%
要介護1	35	26.1%	30.4%	4.4%	26.1%	4.4%	8.7%
要介護2	35	48.4%	19.4%	6.4%	16.1%	6.4%	3.2%
要介護3	32	39.5%	23.3%	2.3%	20.9%	11.6%	2.3%
要介護4	38	43.8%	14.6%	0.0%	22.9%	16.7%	2.1%
要介護5	35	45.1%	11.8%	3.9%	23.5%	9.8%	5.9%

(利用したことがあると回答した場合) ショートステイ利用希望最長日数(日/回)

	人数	0日	1～5日	6～10日	11日以上	何日でも	無回答
総数	175	40.7%	15.3%	17.9%	5.0%	12.0%	9.1%
要介護1	35	26.1%	30.4%	8.7%	8.7%	8.7%	17.4%
要介護2	35	48.4%	9.7%	22.6%	3.2%	12.9%	3.2%
要介護3	32	39.5%	16.3%	18.6%	4.6%	11.6%	9.3%
要介護4	38	43.8%	14.6%	14.6%	6.2%	16.6%	4.2%
要介護5	35	45.1%	5.9%	25.5%	1.9%	9.8%	11.8%

ショートステイ未利用者のうち、「すぐにでも利用したい」「利用を検討したい」という人は12.8%であった。この割合は、平成25年は18.0%、平成28年は15.5%であったので、利用希望のある人が利用できていない割合は低下していた。「すぐにでも利用したい」「利用を検討したい」という人は、要介護1～3で多い傾向がみられた。

ショートステイ未利用者の利用希望回数は、年に「1～5回」が47.3%と最多で、次いで「11回以上（何回でもを含む）」が21.1%であった。未利用者の希望する利用日数は、1回あたり「1～5日」が31.5%と最多で、次いで「6～10日」が23.0%であった。

（利用したことはない・知らなかったと回答した場合）ショートステイ利用希望

	人数	すぐにでも利用したい	利用を検討したい	なるべく利用したくない	利用はまったく考えていない	現在は利用する必要がない	無回答
総数	441	1.7%	11.1%	11.2%	15.3%	60.0%	0.7%
要介護1	173	0.0%	14.0%	12.3%	13.2%	59.7%	0.9%
要介護2	121	3.8%	9.5%	12.4%	21.9%	52.4%	0.0%
要介護3	59	2.5%	15.0%	7.5%	12.5%	62.5%	0.0%
要介護4	45	1.8%	1.8%	12.3%	12.3%	71.9%	0.0%
要介護5	43	1.6%	7.9%	7.9%	12.7%	66.7%	3.2%

（利用したい・検討したい場合）ショートステイ利用希望回数（回／年）

	人数	1～5回	6～10回	11回以上	何回でも	無回答
総数	56	47.3%	5.4%	15.2%	5.9%	26.2%
要介護1	24	62.5%	0.0%	12.5%	6.3%	18.8%
要介護2	16	35.7%	14.3%	7.1%	7.1%	35.7%
要介護3	10	35.7%	7.1%	21.4%	0.0%	35.7%
要介護4	2	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%
要介護5	4	50.0%	0.0%	33.4%	16.6%	0.0%

（利用したい・検討したい場合）ショートステイ利用希望最長日数（日／回）

	人数	1～5日	6～10日	11日以上	何日でも	無回答
総数	56	31.5%	23.0%	8.6%	9.3%	27.5%
要介護1	24	31.2%	31.2%	0.0%	18.8%	18.8%
要介護2	16	35.7%	7.1%	21.5%	0.0%	35.7%
要介護3	10	28.6%	21.4%	7.1%	0.0%	42.9%
要介護4	2	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
要介護5	4	16.8%	50.0%	16.6%	16.6%	0.0%

(4) 訪問介護サービス

問 27 ホームヘルパーをご存知でしたか。利用したことがありますか。

(現在利用している場合)

副問 1 この1週間では、何回くらい利用しましたか。

副問 2 その中で、介護保険以外のヘルパーの利用はありますか。保険外の利用は、全額自己負担です。

副問 3 1回あたりのホームヘルパーの利用時間は、だいたいどのくらいの時が多いですか。

副問 4 全体的にみて、ホームヘルプサービスにどの程度満足していますか。

副問 5 何回でも利用できるとしたら、今後、週に何回くらい利用したいですか。

(かつて利用・利用したことはない・知らなかった場合)

副問 6 現在、ホームヘルパーを利用したいと思いますか。

(利用したい・利用を検討したい場合)

副副問 何回でも利用できるとしたら、今後、週に何回くらい利用したいですか。

要介護認定者の訪問介護の利用率は、24.4%であった。平成25年は30.0%、平成28年は28.2%であり、若干減少傾向であった。要介護1で30.7%と最も利用率が高かった。

訪問介護利用者の利用回数は、週に「2回」が34.9%と最多で、次いで「1回」が26.9%であったが、「4回以上」という人も24.2%いた。要介護度が重いほど利用回数が増加する傾向がみられ、要介護5では半数の人が、週に「4回以上」利用していた。

介護保険以外のヘルパーを利用していた人は18.4%で、要介護4や要介護5で保険外ヘルパーの利用が多かった。1回あたりの利用時間は「45～60分」が58.2%と最多であった。

訪問介護の利用者に全体的な満足度を評価してもらったところ、「非常に満足」42.5%、「わりと満足」43.1%で、85.6%は肯定的な評価をしていた。「非常に満足」または「わりと満足」の割合は、平成25年は86.1%、平成28年は86.4%で、今回も同程度であった。要介護4や要介護5では、9割が満足していた。

利用希望回数は、週に「4回以上」が29.6%と最多で、「何回でも」と合わせると、36.1%が4回以上を希望していた。要介護5では、「4回以上」または「何回でも」という人が70.4%で、要介護度が重いほど利用希望回数も増える傾向がみられた。

訪問介護の利用状況

	人数	現在利用している	かつて利用したことがある	知っていたが利用したことはない	知らなかった	無回答
総数	620	24.4%	13.5%	60.7%	0.8%	0.6%
要介護1	207	30.7%	6.6%	62.8%	0.0%	0.0%
要介護2	157	23.5%	14.7%	59.6%	2.2%	0.0%
要介護3	92	17.7%	17.7%	62.9%	0.8%	0.8%
要介護4	85	18.5%	18.5%	59.3%	0.9%	2.8%
要介護5	79	23.5%	19.1%	56.5%	0.0%	0.9%

副問1～5へ

副問6へ

(現在利用していると回答した場合) この1週間の訪問介護の利用回数(回/週)

	人数	1回	2回	3回	4回以上	無回答
総数	151	26.9%	34.9%	13.0%	24.2%	0.9%
要介護1	64	33.3%	42.9%	14.3%	9.5%	0.0%
要介護2	37	34.4%	40.6%	9.4%	15.6%	0.0%
要介護3	16	13.6%	22.7%	9.1%	50.0%	4.5%
要介護4	16	20.0%	30.0%	10.0%	40.0%	0.0%
要介護5	18	7.4%	11.1%	22.2%	55.6%	3.7%

(現在利用していると回答した場合) 介護保険以外のヘルパー利用

	人数	ある	ない	わからない	無回答
総数	151	18.4%	75.7%	4.5%	1.5%
要介護1	64	19.0%	76.2%	2.4%	2.4%
要介護2	37	12.5%	81.2%	6.2%	0.0%
要介護3	16	18.2%	77.2%	4.5%	0.0%
要介護4	16	25.0%	65.0%	10.0%	0.0%
要介護5	18	22.2%	70.4%	3.7%	3.7%

(現在利用していると回答した場合) 1回あたりの訪問介護の利用時間

	人数	20～30分	30～45分	45～60分	60～90分	90分以上	不明/無回答
総数	151	9.2%	13.4%	58.2%	11.1%	6.7%	1.5%
要介護1	64	2.4%	14.3%	66.7%	14.3%	2.4%	0.0%
要介護2	37	0.0%	12.5%	65.6%	12.5%	9.4%	0.0%
要介護3	16	22.7%	18.2%	36.4%	13.6%	0.0%	9.1%
要介護4	16	25.0%	10.0%	45.0%	5.0%	15.0%	0.0%
要介護5	18	25.9%	11.1%	44.5%	0.0%	14.8%	3.7%

(現在利用していると回答した場合) 訪問介護の満足度

	人数	非常に満足	わりと満足	あまり満足してない	全然満足してない	無回答
総数	151	42.5%	43.1%	10.6%	2.0%	1.7%
要介護1	64	42.9%	42.9%	9.5%	4.8%	0.0%
要介護2	37	46.9%	31.2%	18.7%	0.0%	3.1%
要介護3	16	31.8%	54.5%	9.1%	0.0%	4.5%
要介護4	16	40.0%	50.0%	10.0%	0.0%	0.0%
要介護5	18	44.5%	51.8%	0.0%	0.0%	3.7%

(現在利用していると回答した場合) 訪問介護の利用希望回数 (回/週)

	人数	1 回	2 回	3 回	4 回以上	何回でも	無回答
総数	151	19.4%	25.0%	18.0%	29.6%	6.5%	1.5%
要介護 1	64	26.2%	33.3%	21.4%	16.7%	2.4%	0.0%
要介護 2	37	28.1%	25.0%	12.5%	25.0%	9.4%	0.0%
要介護 3	16	4.6%	13.6%	22.7%	54.6%	0.0%	4.5%
要介護 4	16	5.0%	15.0%	25.0%	45.0%	5.0%	5.0%
要介護 5	18	3.7%	14.8%	7.4%	48.2%	22.2%	3.7%

訪問介護サービスを利用していない人のうち、「すぐにでも利用したい」「利用を検討したい」という人は7.5%であった。この割合は、平成25年は12.5%、平成28年は10.5%であったので、利用希望のある人が利用できていない割合は低下していた。利用希望者は、要介護1で14.8%と、他の要介護度と比べて多かった。

訪問介護サービスを利用していない人のうち、「すぐにでも利用したい」「利用を検討したい」という人は、週に「1回」の利用を希望する場合は44.7%と最多で、次いで週に「2回」が24.8%であった。

(かつて利用・利用したことはない・知らなかったと回答した場合) 訪問介護の利用希望

	人数	すぐにでも利用したい	利用を検討したい	なるべく利用したくない	利用はまったく考えていない	現在は利用する必要がない	無回答
総数	465	1.9%	5.6%	10.0%	10.7%	70.8%	0.9%
要介護 1	144	3.2%	11.6%	11.6%	13.7%	57.9%	2.1%
要介護 2	120	1.0%	2.9%	13.5%	11.5%	71.2%	0.0%
要介護 3	75	2.0%	4.9%	9.9%	6.9%	76.2%	0.0%
要介護 4	67	1.2%	3.5%	3.5%	9.4%	82.4%	0.0%
要介護 5	59	1.2%	0.0%	6.9%	8.1%	81.6%	2.3%

(利用したい・検討したい場合) 訪問介護の利用希望回数 (回/週)

	人数	1 回	2 回	3 回	4 回以上	何回でも	無回答
総数	35	44.7%	24.8%	12.1%	2.0%	9.9%	6.5%
要介護 1	21	57.1%	21.4%	7.2%	0.0%	7.2%	7.2%
要介護 2	5	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%
要介護 3	5	14.3%	57.1%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%
要介護 4	3	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%
要介護 5	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

(5) 通所サービス

問 28 通所サービスをご存知でしたか。利用したことがありますか。

(現在利用している場合)

副問 1 この1週間では、何回くらい利用しましたか。

副問 2 全体的にみて、通所サービスにどの程度満足していますか。

副問 3 何回でも利用できるとしたら、今後、週に何回くらい利用したいですか。

(かつて利用・利用したことはない・知らなかった場合)

副問 4 現在、通所サービスを利用したいと思いますか。

(利用したい・利用を検討したい場合)

副副問 何回でも利用できるとしたら、今後、週に何回くらい利用したいですか。

要介護認定者の通所サービス（デイサービスやデイケア）の利用率は46.5%で、要介護1～3で利用率が高く、半数が利用していた。通所サービスの利用率は、平成25年は42.9%、平成28年は49.9%で、年によって変動があるが4割台で推移していた。

通所サービス利用者の利用回数は、週に「2回」が44.5%と最も割合が高く、「3回以上」も41.5%と高かった。要介護度が重いほど利用回数も増加する傾向がみられ、「3回以上」の利用は、要介護4と要介護5で、それぞれ55.3%と55.9%であった。

通所サービスの利用者に満足度を評価してもらったところ、「非常に満足」が52.4%、「わりと満足」が39.6%で、92.0%は肯定的な評価をしていた。「非常に/わりと満足」の割合は、平成25年は95.5%、平成28年は91.5%で、概ね同程度の水準で推移していた。

利用希望回数は、週に「2回」31.3%、「3回」31.2%、「4回以上」27.6%と分散していた。

通所サービスの利用状況

	人数	現在利用している	かつて利用したことがある	知っていたが利用したことはない	知らなかった	無回答
総数	620	46.5%	22.7%	28.0%	2.3%	0.5%
要介護1	207	51.8%	11.7%	32.9%	3.7%	0.0%
要介護2	157	52.2%	19.9%	24.3%	3.7%	0.0%
要介護3	92	50.0%	29.8%	20.2%	0.0%	0.0%
要介護4	85	35.2%	32.4%	28.7%	0.9%	2.8%
要介護5	79	29.6%	38.3%	31.3%	0.0%	0.9%

副問 1～3 へ

副問 4 へ

(現在利用していると回答した場合) この1週間の通所サービスの利用回数(回/週)

	人数	1回	2回	3回	4回以上
総数	289	14.0%	44.5%	23.1%	18.4%
要介護1	108	12.7%	56.3%	22.5%	8.5%
要介護2	82	12.7%	45.1%	21.1%	21.1%
要介護3	46	21.0%	30.7%	19.4%	29.0%
要介護4	30	15.8%	29.0%	29.0%	26.3%
要介護5	23	8.8%	35.3%	32.4%	23.5%

(現在利用していると回答した場合) 通所サービスの満足度

	人数	非常に満足	わりと満足	あまり満足 していない	全然満足 していない	無回答
総数	289	52.4%	39.6%	7.6%	0.3%	0.2%
要介護1	108	64.8%	28.2%	7.0%	0.0%	0.0%
要介護2	82	42.3%	52.1%	5.6%	0.0%	0.0%
要介護3	46	56.5%	33.9%	8.1%	1.6%	0.0%
要介護4	30	44.7%	42.1%	13.2%	0.0%	0.0%
要介護5	23	32.4%	55.9%	8.8%	0.0%	2.9%

(現在利用していると回答した場合) 通所サービスの利用希望回数(回/週)

	人数	1回	2回	3回	4回以上	何回でも
総数	289	6.8%	31.3%	31.2%	27.6%	3.2%
要介護1	108	5.6%	40.9%	33.8%	18.3%	1.4%
要介護2	82	8.5%	28.2%	29.6%	32.4%	1.4%
要介護3	46	11.3%	17.7%	29.0%	35.5%	6.5%
要介護4	30	2.6%	34.2%	26.3%	31.6%	5.3%
要介護5	23	2.9%	20.6%	35.3%	32.4%	8.8%

通所サービスを利用していない人のうち、「すぐにでも利用したい」「利用を検討したい」という人は6.8%であった。この割合も低下していた(平成25年:10.8%、平成28年:7.4%)。未利用者のうち、利用希望がある人の希望回数は、週に「1回」が32.2%と最多であった。

(かつて利用・利用したことはない・知らなかったと回答した場合) 通所サービスの利用希望

	人数	すぐにでも 利用したい	利用を検討 したい	なるべく 利用したく ない	利用は まったく 考えて いない	現在は 利用する 必要がない	無回答
総数	328	1.4%	5.4%	10.6%	13.6%	68.3%	0.7%
要介護1	100	1.5%	7.6%	19.7%	15.2%	54.5%	1.5%
要介護2	75	3.1%	7.7%	15.4%	24.6%	49.2%	0.0%
要介護3	46	0.0%	6.4%	0.0%	9.7%	83.9%	0.0%
要介護4	53	0.0%	1.5%	3.0%	9.0%	86.6%	0.0%
要介護5	54	1.2%	1.2%	3.8%	3.8%	88.8%	1.2%

(利用したい・検討したい場合) 通所サービスの利用希望回数(回/週)

	人数	1回	2回	3回	4回以上	何回でも	無回答
総数	22	32.2%	17.0%	25.6%	8.2%	6.8%	10.2%
要介護1	9	33.3%	0.0%	50.0%	0.0%	16.7%	0.0%
要介護2	8	42.9%	28.6%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%
要介護3	3	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
要介護4	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
要介護5	1	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%

(6) 訪問看護サービス

問 29 訪問看護サービスをご存知でしたか。利用したことがありますか。

(現在利用している場合)

副問 1 この1カ月間では、何回くらい利用しましたか。

副問 2 全体的にみて、訪問看護サービスにどの程度満足していますか。

副問 3 何回でも利用できるとしたら、今後、月に何回くらい利用したいですか。

(かつて利用・利用したことはない・知らなかった場合)

副問 4 現在、訪問看護サービスを利用したいと思いますか。

(利用したい・利用を検討したい場合)

副副問 何回でも利用できるとしたら、今後、月に何回くらい利用したいですか。

要介護認定者の訪問看護サービスの利用率は20.8%で、平成25年(14.2%)や平成28年(15.8%)より増加していた。要介護4や要介護5で利用率が若干高い傾向がみられた。

訪問看護サービスを利用している人の利用回数は、月に「3～4回」が52.4%と最多であった。3回以上の利用は、要介護5で89.6%と、他の要介護度と比べて顕著に高かった。

訪問看護サービスの利用者の満足度は、「非常に満足」56.5%、「わりと満足」40.2%で、96.7%が肯定的な評価をしていた。「非常に/わりと満足」の割合は、平成25年は95.8%、平成28年は93.4%で、同程度の水準であった。訪問看護サービスを利用している人の利用希望回数は、月に「3～4回」が46.2%と最多で、「5回以上」も20.7%いた。

訪問看護の利用状況

	人数	現在利用している	かつて利用したことがある	知っていたが利用したことはない	知らなかった	無回答
総数	620	20.8%	10.3%	59.8%	8.7%	0.5%
要介護1	207	19.0%	7.3%	65.0%	8.8%	0.0%
要介護2	157	21.3%	10.3%	56.6%	11.8%	0.0%
要介護3	92	16.9%	12.1%	62.1%	8.9%	0.0%
要介護4	85	24.1%	12.0%	53.7%	7.4%	2.8%
要介護5	79	25.2%	13.9%	56.5%	3.5%	0.9%

副問1～3へ

副問4へ

(現在利用していると回答した場合) この1カ月の訪問看護の利用回数(回/月)

	人数	1回	2回	3～4回	5回以上
総数	129	18.4%	12.0%	52.4%	17.2%
要介護1	39	26.9%	7.7%	65.4%	0.0%
要介護2	33	13.8%	17.2%	48.3%	20.7%
要介護3	16	23.8%	19.1%	42.9%	14.3%
要介護4	21	23.1%	7.7%	42.3%	26.9%
要介護5	20	0.0%	10.3%	51.7%	37.9%

(現在利用していると回答した場合) 訪問看護の満足度

	人数	非常に満足	わりと満足	あまり満足 していない	全然満足 していない
総数	129	56.5%	40.2%	2.7%	0.5%
要介護1	39	57.7%	42.3%	0.0%	0.0%
要介護2	33	62.1%	34.5%	3.5%	0.0%
要介護3	16	47.6%	47.6%	4.8%	0.0%
要介護4	21	50.0%	42.3%	7.7%	0.0%
要介護5	20	58.6%	37.9%	0.0%	3.5%

(現在利用していると回答した場合) 訪問看護の利用希望回数(回/月)

	人数	1回	2回	3～4回	5回以上	何回でも
総数	129	20.0%	10.3%	46.2%	20.7%	2.9%
要介護1	39	26.9%	7.7%	57.7%	7.7%	0.0%
要介護2	33	13.8%	17.2%	41.4%	20.7%	6.9%
要介護3	16	23.8%	19.1%	42.9%	14.3%	0.0%
要介護4	21	23.1%	3.9%	42.3%	30.8%	0.0%
要介護5	20	10.3%	3.5%	37.9%	41.4%	6.9%

訪問看護サービスを利用していない人のうち、「すぐにでも利用したい」「利用を検討したい」人は6.6%であった。この割合も低下していた(平成25年:9.2%、平成28年:6.7%)。利用を希望・検討したい人の希望回数は、月に「2回」が31.7%と最も割合が高かった。

(かつて利用・利用したことはない・知らなかったと回答した場合) 訪問看護の利用希望

	人数	すぐにでも 利用したい	利用を検討 したい	なるべく 利用したく ない	利用は まったく 考えて いない	現在は 利用する 必要がない	無回答
総数	488	0.8%	5.8%	9.4%	9.3%	74.0%	0.7%
要介護1	168	0.9%	7.2%	12.6%	12.6%	65.8%	0.9%
要介護2	123	0.0%	6.5%	13.1%	10.3%	70.1%	0.0%
要介護3	76	2.9%	5.8%	5.8%	7.8%	76.7%	1.0%
要介護4	63	0.0%	3.8%	5.1%	1.3%	89.9%	0.0%
要介護5	58	0.0%	2.4%	1.2%	8.2%	85.9%	2.4%

(利用したい・検討したい場合) 訪問看護の利用希望回数(回/月)

	人数	1回	2回	3～4回	5回以上	何回でも	無回答
総数	32	9.5%	31.7%	29.4%	10.8%	2.1%	16.5%
要介護1	14	0.0%	44.4%	22.2%	0.0%	0.0%	33.3%
要介護2	8	28.6%	14.3%	42.9%	14.3%	0.0%	0.0%
要介護3	7	11.1%	44.4%	22.2%	11.1%	0.0%	11.1%
要介護4	2	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
要介護5	1	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%

(7) その他の介護・医療・福祉サービス・支援

問 30 次のサービスや支援をご存じですか。利用したことがありますか。
今後利用したいと思いませんか。

((1)～(11)について、利用と利用希望の有無を1つずつ質問)

- (1) 訪問入浴介護
- (2) 訪問リハビリテーション
- (3) 認知症高齢者グループホーム（認知症対応型共同生活介護）
- (4) 小規模多機能型居宅介護
- (5) 看護小規模多機能型居宅介護
- (6) 夜間対応型訪問介護
- (7) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
- (8) 訪問診療、往診
- (9) 権利擁護事業
- (10) 配食サービス
- (11) リフト付きタクシー

その他の介護保険等のサービスや支援のうち、利用率が高いのは「訪問診療、往診」23.0%、「訪問リハビリテーション」21.6%、「配食サービス」15.9%、「リフト付きタクシー」13.5%、「訪問入浴介護」12.1%であった。これらの利用率が高いサービスのうち、「訪問診療、往診」「訪問リハビリテーション」「リフト付きタクシー」「訪問入浴介護」は、要介護度が重いほど利用率が高くなっていた。

利用希望者の割合が高いのも、「訪問診療、往診」24.5%、「訪問リハビリテーション」21.7%であった。それ以外で利用希望者が10%を超えていたのは、「訪問入浴介護」11.4%、「配食サービス」11.4%、「リフト付きタクシー」16.2%であった。

いずれのサービス等に関しても、利用者と利用希望者の割合に大きな乖離はなかった。地域密着型サービスについては、利用者、利用希望者ともに総じて割合が低かった。

その他の介護・医療・福祉サービス・支援の利用者の割合

	人数	訪問 入浴介護	訪問 リハビリテーション	認知症対応 型共同生活 介護	小規模 多機能型 居宅介護	看護小規模 多機能型 居宅介護	夜間対応型 訪問介護
総数	620	12.1%	21.6%	3.2%	2.7%	1.3%	3.1%
要介護1	207	4.4%	19.0%	2.9%	2.2%	2.2%	2.2%
要介護2	157	11.0%	18.4%	1.5%	3.7%	0.7%	3.7%
要介護3	92	19.4%	26.6%	7.3%	4.0%	2.4%	4.0%
要介護4	85	13.0%	22.2%	3.7%	0.0%	0.0%	0.9%
要介護5	79	25.2%	28.7%	1.7%	3.5%	0.0%	5.2%
	人数	定期巡回・ 随時対応型 訪問介護看護	訪問診療 往診	権利擁護 事業	配食サービス	リフト付き タクシー	
総数	620	3.8%	23.0%	1.6%	15.9%	13.5%	
要介護1	207	3.7%	16.1%	2.2%	17.5%	7.3%	
要介護2	157	2.2%	16.2%	0.7%	16.9%	6.6%	
要介護3	92	5.7%	25.0%	1.6%	15.3%	16.9%	
要介護4	85	3.7%	36.1%	0.9%	12.0%	20.4%	
要介護5	79	5.2%	38.3%	2.6%	14.8%	32.2%	

その他の介護・医療・福祉サービス・支援の利用希望者の割合

	人数	訪問 入浴介護	訪問 リハビリテーション	認知症対応 型共同生活 介護	小規模 多機能型 居宅介護	看護小規模 多機能型 居宅介護	夜間対応型 訪問介護
総数	620	11.4%	21.7%	4.2%	4.3%	2.8%	5.2%
要介護 1	207	6.6%	22.6%	2.2%	2.9%	2.2%	5.8%
要介護 2	157	12.5%	22.8%	3.7%	5.9%	3.7%	5.2%
要介護 3	92	15.3%	21.0%	12.1%	7.3%	4.0%	4.0%
要介護 4	85	9.3%	15.7%	3.7%	0.9%	0.9%	2.8%
要介護 5	79	20.0%	24.4%	1.7%	5.2%	3.5%	7.8%
	人数	定期巡回・ 随時対応型 訪問介護看護	訪問診療 往診	権利擁護 事業	配食サービス	リフト付き タクシー	
総数	620	6.1%	24.5%	1.4%	11.4%	16.2%	
要介護 1	207	5.8%	19.0%	0.7%	13.9%	13.1%	
要介護 2	157	6.6%	21.3%	2.2%	12.5%	14.0%	
要介護 3	92	5.7%	25.8%	0.0%	12.1%	17.7%	
要介護 4	85	4.6%	33.3%	0.9%	4.6%	13.9%	
要介護 5	79	7.8%	33.9%	3.5%	9.6%	29.6%	

(8) 介護保険サービス利用料

問 31 介護保険のサービスをお使いの方はサービス利用料をお支払いですが、現在、自己負担の割合は何割ですか。

問 32 介護保険サービスの利用料は、お宅の家計にとってどの程度負担ですか。

介護保険のサービス利用料の自己負担割合は、「1割」が78.1%、「2割」が8.9%、「3割」が13.1%であった。

サービス利用料の自己負担が家計にとって「非常に負担」という人が12.8%、「多少負担」が33.4%で、両者を合計すると46.2%が負担に感じていた。「非常に/多少負担」の割合は、平成25年は49.4%、平成28年は46.2%で、概ね半数近い人が負担に感じている状況で推移していた。

要介護度が重いほど「非常に/多少負担」の割合も増加し、要介護4では56.4%、要介護5では61.1%がサービス利用料の自己負担が家計にとって負担と答えていた。

自己負担割合別では、「非常に/多少負担」と答えた人の割合は、「2割負担」で61.6%、「3割負担」で48.7%であった。

介護保険サービス利用料の自己負担割合

	人数	1割	2割	3割
総数	620	78.1%	8.9%	13.1%
要介護1	207	76.0%	8.7%	15.4%
要介護2	157	78.8%	9.6%	11.5%
要介護3	92	83.7%	7.6%	8.7%
要介護4	85	81.2%	8.2%	10.6%
要介護5	79	72.2%	10.1%	17.7%

介護保険サービス利用料の負担感

	人数	非常に負担	多少負担	あまり負担ではない	まったく負担ではない	無回答
総数	584	12.8%	33.4%	36.1%	13.9%	3.8%
要介護1	187	4.8%	29.4%	42.8%	20.3%	2.7%
要介護2	155	12.9%	33.5%	39.4%	9.7%	4.5%
要介護3	85	11.8%	37.6%	31.8%	15.3%	3.5%
要介護4	85	17.6%	38.8%	27.1%	10.6%	5.9%
要介護5	72	29.2%	31.9%	27.8%	8.3%	2.8%
1割負担	454	11.0%	33.0%	38.3%	13.7%	4.0%
2割負担	52	15.4%	46.2%	21.2%	15.4%	1.9%
3割負担	78	21.8%	26.9%	34.6%	14.1%	2.6%

注)「サービスを利用していない」や「サービス利用料を払っていない」と回答した人は除外した。

(9) 経済的な理由によるサービスの利用抑制

問 34 経済的な理由で、次の介護保険サービスを利用できなかったり、時間や回数を制限せざるを得ないということがありましたか。((1)～(4)について1つずつ質問)

- (1) ショートステイサービス
- (2) ホームヘルプサービス（訪問介護）
- (3) 通所サービス
- (4) 訪問看護サービス

経済的な理由で介護保険サービスを「利用できなかった」または「時間や回数を制限した」ことのある人は、「ショートステイ」5.2%、「ホームヘルプ」4.8%、「通所サービス」3.6%、「訪問看護」3.7%であった。

「利用できなかった/時間や回数を制限した」割合は、要介護5で多く、「ショートステイ」11.4%、「ホームヘルプ」7.0%、「通所サービス」10.0%、「訪問看護」4.9%であった。

経済的な理由によるサービスの利用抑制

		人数	利用できなかった	時間や回数を制限した	経済的な理由による影響はない	わからない無回答
ショートステイ	総数	309	2.6%	2.6%	84.5%	10.4%
	要介護1	87	2.3%	0.0%	92.0%	5.7%
	要介護2	76	1.3%	3.9%	80.3%	14.5%
	要介護3	56	3.6%	1.8%	82.1%	12.5%
	要介護4	46	4.3%	0.0%	82.6%	13.0%
	要介護5	44	2.3%	9.1%	81.8%	6.8%
ホームヘルプ (訪問介護)	総数	337	0.6%	4.2%	86.4%	8.9%
	要介護1	102	0.0%	2.9%	93.1%	3.9%
	要介護2	86	0.0%	7.0%	82.6%	10.5%
	要介護3	59	1.7%	3.4%	83.1%	11.9%
	要介護4	47	2.1%	0.0%	85.1%	12.8%
	要介護5	43	0.0%	7.0%	83.7%	9.3%
通所サービス	総数	421	0.7%	2.9%	88.4%	8.1%
	要介護1	125	0.0%	0.0%	96.8%	3.2%
	要介護2	118	0.0%	4.2%	84.7%	11.0%
	要介護3	72	1.4%	2.8%	87.5%	8.3%
	要介護4	56	1.8%	1.8%	83.9%	12.5%
	要介護5	50	2.0%	8.0%	82.0%	8.0%
訪問看護	総数	322	0.6%	3.1%	85.4%	10.9%
	要介護1	92	0.0%	0.0%	95.7%	4.3%
	要介護2	85	1.2%	3.5%	78.8%	16.5%
	要介護3	56	1.8%	5.4%	78.6%	14.3%
	要介護4	48	0.0%	4.2%	83.3%	12.5%
	要介護5	41	0.0%	4.9%	87.8%	7.3%

注) 各サービスについて「サービスを利用する必要がない」と回答した人は除外した。

(10) 施設サービス

問 34	あなたは〇〇さん(要介護認定者)の特別養護老人ホームへの入所を希望しますか。
問 35	あなたは〇〇さんの老人保健施設への入所を希望しますか。
問 36	あなたは〇〇さんの介護療養型医療施設や介護医療院への入院を希望しますか。

特別養護老人ホームに「入所中」「申請中」「すぐにでも入所を希望」「入所を検討したい」という人は22.8%で、平成25年(26.8%)より減少し、平成28年(21.2%)と同程度であった。特養の入所申請は要介護3以上であるが、要介護1や要介護2でも入所を希望または検討している人が、それぞれ1割程度いた。

老人保健施設に「入所中」「すぐにでも入所を希望」「入所を検討したい」という人は17.2%で、平成25年(21.5%)より減少し、平成28年(17.2%)と同程度であった。

介護療養型医療施設・介護医療院に「入院中」「すぐにでも入院を希望」「入院を検討したい」人は14.2%で、平成25年(18.7%)より減少し、平成28年(15.4%)と同程度であった。

特別養護老人ホームの利用希望

	人数	入所中	申請中	すぐにでも 入所希望	入所を 検討したい	なるべく入所 させたくない	絶対入所 させたくない	入所の 必要ない	無回答
総数	620	2.7%	4.3%	3.0%	12.8%	14.8%	4.3%	56.9%	1.3%
要介護1	207	1.5%	0.7%	1.5%	11.0%	12.4%	7.3%	63.5%	2.2%
要介護2	157	0.0%	0.7%	2.2%	13.2%	21.3%	2.2%	60.3%	0.0%
要介護3	92	1.6%	5.7%	4.0%	15.3%	12.9%	2.4%	56.5%	1.6%
要介護4	85	9.3%	8.3%	5.6%	13.0%	12.0%	3.7%	46.3%	1.9%
要介護5	79	5.2%	14.8%	4.4%	13.9%	13.0%	3.5%	44.4%	0.9%

老人保健施設の利用希望

	人数	入所中	すぐにでも 入所希望	入所を 検討したい	なるべく入所 させたくない	絶対入所 させたくない	入所の 必要ない	無回答
総数	620	5.5%	1.7%	10.0%	16.0%	4.0%	61.6%	1.2%
要介護1	207	0.7%	1.5%	8.0%	16.8%	6.6%	64.2%	2.2%
要介護2	157	3.7%	0.7%	11.8%	19.1%	2.9%	61.8%	0.0%
要介護3	92	12.1%	0.8%	12.1%	12.1%	2.4%	59.7%	0.8%
要介護4	85	11.1%	3.7%	10.2%	13.9%	2.8%	56.5%	1.9%
要介護5	79	7.8%	3.5%	8.7%	14.8%	2.6%	61.7%	0.9%

介護療養型医療施設・介護医療院の利用希望

	人数	入院中	すぐにでも 入院希望	入院を 検討したい	なるべく入院 させたくない	絶対入院 させたくない	入院の 必要ない	無回答
総数	620	2.2%	1.5%	10.5%	15.3%	4.0%	65.1%	1.4%
要介護1	207	0.7%	1.5%	9.5%	14.6%	5.8%	66.4%	1.5%
要介護2	157	0.0%	1.5%	12.5%	16.9%	2.9%	65.4%	0.7%
要介護3	92	0.0%	1.6%	10.5%	13.7%	3.2%	69.4%	1.6%
要介護4	85	4.6%	1.9%	11.1%	13.9%	3.7%	62.0%	2.8%
要介護5	79	10.4%	0.9%	8.7%	17.4%	2.6%	59.1%	0.9%

(11) 災害時の避難

問 37 地震や水害などの災害時の避難について、うかがいます。

- (1) 災害時に自力で避難することが困難な方を名簿に登録して、いざという時に避難の支援や安否確認を行う「避難行動 要支援者名簿」というものがあります。
「避難行動 要支援者名簿」に登録していますか。または登録したいですか。
- (2) 災害時に利用できる一般の避難所や福祉避難所（二次避難所）の場所を知っていますか。
- (3) 災害時の避難方法や避難経路、日頃の備えなどについて、防災や医療・福祉の専門職から助言や指導を受けたことがありますか。または助言や指導を受けたいですか。
- (4) 災害時の避難を手助けしてくれる人はいますか。それは誰ですか。（複数回答）

「避難行動 要支援者名簿」に「登録している」人は 19.4%、「今は登録していないが、登録したい」という人は 21.3%であった。「登録している」人は、要介護 5 で 24.4%と多く、「今は登録していないが、登録したい」は要介護 1 で 24.8%と多かった。

一般の避難所については、「一般の避難所の場所を知っている」「両方の場所を知っている」を合わせると 58.4%が知っていたが、福祉避難所については「福祉避難所の場所を知っている」「両方の場所を知っている」を合わせても 12.8%であった。「どちらも知らない」という人も 37.7%いた。

災害時の避難方法や避難経路、日頃の備えなどについて、防災や医療・福祉の専門職から助言や指導を「受けたことがある」人は 7.6%と少なく、「受けたことはないが、受けたい」という人は 26.6%であった。要介護度による特定の傾向は見当たらなかった。

災害時の避難を手助けしてくれる人は、「家族」が 58.4%と最も割合が高く、次いで「施設の職員」16.5%、「近隣の人、友人」11.2%であった。「誰もいない」という人も 20.5%いた。認定状況別にみると、「誰もいない」の割合は、要介護 2 で 30.2%と高かった。

避難行動 要支援者名簿への登録状況

	人数	登録している	登録していないが、登録したい	今後も登録しなくてよい	わからない 無回答
総数	620	19.4%	21.3%	32.1%	27.3%
要介護 1	207	16.8%	24.8%	32.1%	26.3%
要介護 2	157	22.8%	23.5%	27.9%	25.7%
要介護 3	92	18.6%	20.2%	30.7%	30.6%
要介護 4	85	15.7%	14.8%	43.5%	26.0%
要介護 5	79	24.4%	15.7%	29.6%	30.4%

一般の避難所や福祉避難所（二次避難所）の場所

	人数	両方の場所を知っている	一般の避難所を知っている	福祉避難所を知っている	どちらも知らない	無回答
総数	620	10.1%	48.3%	2.7%	37.7%	1.1%
要介護1	207	7.3%	47.5%	2.9%	40.9%	1.5%
要介護2	157	9.6%	47.1%	2.2%	41.2%	0.0%
要介護3	92	11.3%	46.8%	3.2%	38.7%	0.0%
要介護4	85	13.9%	51.9%	2.8%	28.7%	2.8%
要介護5	79	13.0%	51.3%	2.6%	31.3%	1.7%

災害時の避難方法等について専門職からの助言や指導

	人数	受けたことがある	受けたことはないが、受けたい	受けたことはないし、今後も受けなくてよい	無回答
総数	620	7.6%	26.6%	63.4%	2.4%
要介護1	207	8.0%	29.2%	60.6%	2.2%
要介護2	157	7.4%	27.2%	64.0%	1.5%
要介護3	92	6.5%	27.4%	62.9%	3.2%
要介護4	85	4.6%	18.5%	73.2%	3.7%
要介護5	79	11.3%	26.1%	60.0%	2.6%

災害時の避難を手助けしてくれる人（複数回答）

	人数	家族、親族	近隣、友人	施設の職員	その他	誰もいない
総数	620	58.4%	11.2%	16.5%	1.5%	20.5%
要介護1	207	62.8%	14.6%	5.8%	2.9%	19.0%
要介護2	157	56.6%	12.5%	9.6%	0.7%	30.2%
要介護3	92	60.5%	8.9%	25.8%	0.8%	17.7%
要介護4	85	51.9%	9.3%	33.3%	0.0%	13.9%
要介護5	79	54.8%	4.4%	29.6%	1.7%	15.7%

(12) 障がい福祉サービス

問 38 65 歳になるまでに、障がい福祉サービスを利用したことがありましたか。障がい福祉サービスとは、三鷹市の障がい者支援課に申請して利用する介護や就労支援などのサービスです。

(利用したことがあると回答した場合)

副問 65 歳以降、サービス利用に関して、次のような問題がありましたか。

((1)～(5)について1つずつ質問)

- (1) 使いたいサービスや施設が利用できなくなった
- (2) 利用回数や利用時間を減らさざるを得なくなった
- (3) 障がい特性を理解した対応が受けられなくなった
- (4) 経済的な負担が増えた
- (5) 家族の負担が増えた

65 歳までに障がい福祉サービスを利用していた人は、4.8%であった。

65 歳以降、サービス利用に関して経験した問題としては、「家族の負担が増えた」が 36.9%と最も割合が高く、次いで「経済的な負担の増加」が 15.7%、「障がい特性を理解した対応が受けられなくなった」が 12.2%となっていた。

障がい福祉サービスの利用

人数	あった	なかった	わからない 無回答
620	4.8%	86.4%	8.8%

(障がい福祉サービスを利用していた場合) 65 歳以降のサービス利用に関する問題

	人数	あった	なかった	わからない 無回答
使いたいサービスや施設が利用できなくなった	30	4.6	88.6	6.8
利用回数や利用時間を減らさざるを得なくなった	30	2.3	93.2	4.6
障がい特性を理解した対応が受けられなくなった	30	12.2	83.2	4.6
経済的な負担が増えた	30	15.7	78.2	6.1
家族の負担が増えた	30	36.9	60.8	2.3

5 介護者の状況

(1) 主な介護者

問 39 ○○さん(要介護認定者)の「お世話を主にしている人」はどなたですか。

(お世話を主にしている家族・親族がいる場合)

問 40 「お世話を主にしている人」の性別を教えてください。

お世話を主にしている主介護者は、「配偶者」が 31.4%と最多で、次いで「娘（配偶者あり/なし）」21.2%、「息子（配偶者あり/なし）」15.0%であった。平成 25 年・平成 28 年と比べると、「息子の妻(嫁)」が減少し、「配偶者」「息子」「施設職員」が微増していた。

「主介護者はいない」人も 11.9%いて、要介護度が軽度であるほど、この割合は高く、要介護 1 では 21.1%であった。「主介護者がいない」人の割合は、平成 25 年は 8.4%、平成 28 年は 12.8%で、概ね 1 割程度で推移していた。

主介護者の性別は、「女性」が 64.0%を占めていた。主介護者が「女性」の割合は、平成 25 年は 64.9%、平成 28 年は 68.1%で、概ね 65%前後で推移していた。

主な介護者（主介護者）

	人数	配偶者	息子 (配偶者あり)	息子 (配偶者なし)	娘 (配偶者あり)	娘 (配偶者なし)	息子の妻 (嫁)	その他の親族	ヘルパー	施設職員	その他	主介護者はいない
総数	620	31.4%	7.6%	7.4%	10.9%	10.3%	5.6%	4.3%	2.7%	6.6%	1.3%	11.9%
要介護1	207	24.9%	8.6%	5.7%	9.6%	8.6%	6.7%	6.7%	2.9%	1.4%	3.9%	21.1%
要介護2	157	43.6%	5.8%	5.8%	7.7%	10.3%	5.1%	1.9%	3.8%	1.9%	0.0%	14.1%
要介護3	92	25.8%	14.0%	7.5%	12.9%	10.8%	8.6%	2.2%	3.2%	10.8%	0.0%	4.3%
要介護4	85	32.9%	4.7%	9.4%	14.1%	10.6%	3.5%	4.7%	1.2%	16.5%	0.0%	2.4%
要介護5	79	29.1%	3.8%	12.7%	15.2%	13.9%	2.5%	5.1%	1.3%	13.9%	0.0%	2.5%

主介護者の性別

	人数	男性	女性
総数	481	36.0%	64.0%
要介護1	147	37.4%	62.6%
要介護2	126	38.4%	61.6%
要介護3	75	37.3%	62.7%
要介護4	68	30.9%	69.1%
要介護5	65	32.3%	67.7%

注) 主介護者がいない人や親族以外が主介護者である人は除外した。

(お世話を主にしている家族・親族がいる場合)

問 41 「お世話を主にしている人」の年齢はおいくつですか。

問 42 「お世話を主にしている人」は、〇〇さん(要介護認定者)と一緒に住んでいますか。離れて住んでいる場合は、ふだん使っている交通手段でどのくらいの時間がかかりますか。

問 43 「お世話を主にしている人」は、〇〇さん以外の高齢者、病人、乳幼児、障がいのある人のお世話もしていらっしゃいますか。

主介護者の年齢階級は、「59歳以下」22.8%、「60～64歳」14.5%、「65～69歳」16.0%、「70～79歳」27.2%、「80歳以上」18.9%で、「65歳以上」が62.1%を占めていた。主介護者が「65歳以上」の割合は、平成25年(54.3%)や平成28年(54.1%)より増加していた。

主介護者は要介護認定者と「同居」が67.1%で最多であったが、「同居」の割合は、平成25年は79.8%、平成28年は69.4%であったので、年々減少する傾向にあった。

調査対象となった要介護認定者の以外の人介護や看護をしている人が、10.6%いた。

主介護者の年齢階級

	人数	49歳未満	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～79歳	80歳以上	無回答
総数	481	5.4%	17.4%	14.5%	16.0%	27.2%	18.9%	0.6%
要介護1	147	4.1%	18.6%	18.6%	11.3%	25.8%	21.7%	0.0%
要介護2	126	4.8%	18.3%	10.3%	15.9%	31.7%	19.0%	0.0%
要介護3	75	6.6%	15.8%	19.7%	14.5%	26.3%	15.8%	1.3%
要介護4	68	5.9%	10.3%	13.2%	22.1%	25.0%	22.1%	1.5%
要介護5	65	7.7%	23.1%	9.2%	21.5%	24.6%	12.3%	1.5%

注) 主介護者がいない人や親族以外が主介護者である人は除外した。

主介護者と要介護認定者の同別居

	人数	同居	片道15分未満	片道15分～1時間未満	片道1～2時間未満	片道2時間以上	無回答
総数	481	67.1%	10.8%	15.2%	6.5%	0.3%	0.2%
要介護1	147	74.2%	7.2%	7.2%	11.3%	0.0%	0.0%
要介護2	126	75.2%	11.0%	13.8%	0.0%	0.0%	0.0%
要介護3	75	64.7%	10.8%	17.7%	6.9%	0.0%	0.0%
要介護4	68	57.0%	16.3%	17.4%	7.0%	1.2%	1.2%
要介護5	65	48.4%	12.6%	30.5%	7.4%	1.1%	0.0%

注) 主介護者がいない人や親族以外が主介護者である人は除外した。

主介護者は他の家族の介護・看護等をしているか

	人数	当該高齢者のみ	他にも世話	無回答
総数	481	89.2%	10.6%	0.2%

注) 主介護者がいない人や親族以外が主介護者である人は除外した。

（お世話を主にしている家族・親族がいる場合）

問 44 この1ヵ月間に「お世話を主にしている人」は、〇〇さん（要介護認定者）のお世話をどの程度なさいましたか。

問 45 「お世話を主にしている人」が、〇〇さんのお世話をされるようになってから、どのくらいたちますか。

「毎日かかりきり」で介護している人が26.4%、「かかりきりではないが、ほぼ毎日」が39.7%で、66.1%が毎日、介護をしていた。「毎日かかりきり」の割合は、平成25年が31.9%、平成28年は25.3%で、概ね25～30%程度で推移していた。「毎日かかりきり」の割合は、要介護度が重くなるほど増加し、要介護5では36.8%が介護に「毎日かかりきり」の状態であった。

介護期間は「1年未満」が10.4%、「1年以上3年未満」が19.3%、「3年以上5年未満」が21.2%、「5年以上10年未満」が23.9%、「10年以上」が19.4%であった。介護期間が「5年以上」の主介護者は、平成25年は38.1%、平成28年は44.4%、今回は43.3%であり、概ね4割程度で推移していた。

主介護者の介護の頻度

	人数	毎日 かかりきり	かかりきり ではないが ほぼ毎日	週に 3～5日	週に 1～2日	それより 少ない	ほとんど 介護して いない	無回答
総数	481	26.4%	39.7%	6.7%	11.0%	7.0%	9.0%	0.3%
要介護1	147	20.6%	46.4%	8.3%	9.3%	9.3%	6.2%	0.0%
要介護2	126	20.2%	53.2%	5.5%	10.1%	3.7%	7.3%	0.0%
要介護3	75	31.4%	32.4%	5.9%	15.7%	6.9%	7.8%	0.0%
要介護4	68	34.9%	29.1%	3.5%	10.5%	9.3%	11.6%	1.2%
要介護5	65	36.8%	17.9%	9.5%	11.6%	6.3%	16.8%	1.1%

注）主介護者がいない人や親族以外が主介護者である人は除外した。

主介護者の介護期間

	人数	6ヶ月 未満	6ヶ月 ～1年	1年～ 3年	3年～ 5年	5年～ 10年	10年 以上	介護はし ていない	無回答
総数	481	2.5%	7.9%	19.3%	21.2%	23.9%	19.4%	5.1%	0.6%
要介護1	147	2.1%	9.3%	17.5%	23.7%	22.7%	17.5%	6.2%	1.0%
要介護2	126	1.8%	6.4%	31.2%	16.5%	22.0%	19.3%	2.8%	0.0%
要介護3	75	2.0%	4.9%	18.6%	21.6%	26.5%	21.6%	3.9%	1.0%
要介護4	68	3.5%	10.5%	10.5%	23.3%	22.1%	20.9%	8.1%	1.2%
要介護5	65	4.2%	8.4%	10.5%	22.1%	29.5%	20.0%	5.3%	0.0%

注）主介護者がいない人や親族以外が主介護者である人は除外した。

(お世話を主にしている家族・親族がいる場合)

問 46 「お世話を主にしている人」は、〇〇さん(要介護認定者)にどのようなお世話をしていますか。(複数回答)

問 47 もしも、「お世話を主にしている人」が、急病や外出などでお世話ができないような状況になった場合、一週間程度、代わりにお世話を頼める人がいますか。

日常生活動作(ADL)に関する介護では「衣服の着脱」が33.3%、「入浴、洗身」が29.9%と割合が高かった。手段的日常生活動作(IADL)に関する介護では、「金銭管理」が78.6%、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が70.2%、「食事の準備」が62.3%と高かった。

介護を1週間程度代わってくれる人が「いる」という主介護者は50.8%、「いない」が48.5%であった。介護を1週間程度代わってくれる人が「いない」割合は、平成25年は53.4%、平成28年は52.9%で、若干減少する傾向がみられた。

主介護者の介護内容(複数回答)

	人数	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助	入浴洗身	身だしなみ	衣服の着脱	屋内の移乗、移動
総数	481	21.6%	20.9%	23.8%	29.9%	28.9%	33.3%	27.2%
要介護1	147	6.2%	7.2%	14.4%	30.9%	16.5%	19.6%	17.5%
要介護2	126	9.2%	11.9%	12.8%	29.4%	23.9%	31.2%	20.2%
要介護3	75	33.3%	30.4%	30.4%	29.4%	33.3%	45.1%	34.3%
要介護4	68	44.2%	39.5%	30.2%	32.6%	40.7%	45.4%	40.7%
要介護5	65	43.2%	39.0%	51.6%	26.3%	49.5%	42.1%	40.0%
	人数	外出の付き添い・送迎	服薬	認知症状への対応	医療面での対応	食事の準備	その他の家事	金銭管理
総数	481	57.8%	41.8%	20.1%	13.5%	62.3%	70.2%	78.6%
要介護1	147	61.9%	35.1%	12.4%	8.3%	71.1%	75.3%	73.2%
要介護2	126	60.6%	42.2%	19.3%	11.0%	68.8%	77.1%	79.8%
要介護3	75	60.8%	47.1%	27.5%	15.7%	55.9%	68.6%	78.4%
要介護4	68	53.5%	44.2%	22.1%	12.8%	55.8%	65.1%	83.7%
要介護5	65	44.2%	47.4%	28.4%	28.4%	44.2%	52.6%	83.2%

注) 主介護者がいない人や親族以外が主介護者である人は除外した。

1週間程度、介護を代わってくれる人の有無

	人数	いる	いない	無回答
総数	481	50.8%	48.5%	0.7%
要介護1	147	55.7%	44.3%	0.0%
要介護2	126	51.4%	48.6%	0.0%
要介護3	75	43.1%	55.9%	1.0%
要介護4	68	52.3%	45.3%	2.4%
要介護5	65	46.3%	52.6%	1.1%

注) 主介護者がいない人や親族以外が主介護者である人は除外した。

(2) 主な介護者の就労状況

問 48 お世話を主にしている人は、現在、収入のある仕事をしていますか。複数の仕事をしている場合は、主な仕事についてお答えください。

(仕事をしている場合)

副問 1 お世話を主にしている人は、介護をするにあたって、何か働き方の調整をしていますか。(複数回答)

副問 2 お世話を主にしている人は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。

主介護者の就労状況は、「仕事をしていない」が 61.0%と最多で、「常勤(週 30 時間以上)」は 15.8%、「パート(週 30 時間未満)」が 11.3%であった。「仕事をしていない」割合は、平成 25 年は 63.0%、平成 28 年は 59.6%で、概ね 6 割程度で推移していた。「常勤(週 30 時間以上)」は、平成 25 年が 13.8%、平成 28 年は 14.9%、「パート(週 30 時間未満)」は、平成 25 年が 12.8%、平成 28 年は 15.3%で、就業形態も大きな変化はなかった。

仕事をしている主介護者の 54.1%は、介護をするにあたって働き方の調整は特に行っていなかった。働き方の調整をしている人では、「労働時間を調整」が 26.3%で最も割合が高かった。「働き方の調整は特に行っていない」という主介護者の割合は、要介護 1 で高く、要介護 4 で低かった。要介護 4 の高齢者の主介護者では、「労働時間の調整」とともに「休暇を取りながら」という回答の割合も高かった。

仕事と介護の両立については、「問題なく続けていける」が 48.6%、「問題はあるが、何とか続けていける」が 42.4%で、91.0%の人が仕事と介護を両立できると答えていた。「問題なく」または「何とか続けていける」と答えた割合が顕著に低かったのは、要介護 4 であった(70.8%)。

主介護者の就労状況

	人数	常勤 週 30 時間 以上	パート 週 30 時間 未満	自営業 毎日かなり の時間	自営業 毎日わずか な時間	自営業 週 1～2 日 程度	収入のある 仕事はして いない	無回答
総数	481	15.8%	11.3%	7.0%	2.1%	2.4%	61.0%	0.5%
要介護 1	147	18.6%	10.3%	5.2%	4.1%	2.1%	58.8%	1.0%
要介護 2	126	14.7%	11.9%	11.9%	0.9%	4.6%	56.0%	0.0%
要介護 3	75	15.7%	12.8%	3.9%	2.0%	2.0%	63.7%	0.0%
要介護 4	68	12.8%	8.1%	5.8%	1.2%	0.0%	70.9%	1.2%
要介護 5	65	14.7%	13.7%	6.3%	1.1%	2.1%	62.1%	0.0%

副問1、2へ

注) 主介護者がいない人や親族以外が主介護者である人は除外した。

(仕事をしている場合) 主介護者の「働き方の調整」(複数回答)

	人数	労働時間を調整	休暇を取りながら	在宅勤務を利用	その他	働き方の調整は特に行っていない	わからない
総数	185	26.3%	9.0%	3.5%	9.0%	54.1%	2.0%
要介護1	59	15.4%	5.1%	2.6%	5.1%	69.2%	2.6%
要介護2	55	33.3%	8.3%	2.1%	12.5%	47.9%	0.0%
要介護3	27	27.0%	10.8%	0.0%	8.1%	51.4%	5.4%
要介護4	19	29.2%	20.8%	12.5%	12.5%	37.5%	4.2%
要介護5	25	33.3%	8.3%	5.6%	8.3%	47.2%	0.0%

(仕事をしている場合) 主介護者の「仕事と介護の両立」

	人数	問題なく続けていける	問題はあるが何とか続けていける	続けていくのはやや難しい	続けていくのはかなり難しい	わからない 無回答
総数	185	48.6%	42.4%	1.3%	2.8%	4.9%
要介護1	59	53.9%	43.6%	0.0%	0.0%	2.6%
要介護2	55	54.2%	37.5%	0.0%	4.2%	4.2%
要介護3	27	35.1%	51.4%	2.7%	0.0%	10.8%
要介護4	19	37.5%	33.3%	8.3%	8.3%	12.5%
要介護5	25	47.2%	47.2%	0.0%	5.6%	0.0%

問 49 「お世話を主にしている人」は、介護のために、収入のある仕事を辞めたことがありますか。（複数回答）

（常勤・非常勤・パートの職を辞めた経験がある場合）

副問 どのような支援や制度があれば、仕事を続けることができたと思いますか。（複数回答）

就労経験のある主介護者のうち、介護のために「常勤職を辞めた」経験のある人は12.6%であった（平成25年：11.7%、平成28年：11.8%）。「非常勤・パートの職を辞めた」経験のある人は6.3%であった（平成25年：14.6%、平成28年：5.4%）。要介護度が重いほど離職経験者が増加する傾向にあり、要介護5では「常勤/非常勤の職を辞めた」経験のある人が30.5%であった。

離職経験者に、どのような支援や制度があれば仕事を続けることができたと思うかを質問した結果、「自宅で勤務できる制度」27.1%、「施設や病院の入所・入院」26.1%、「介護休業制度」22.9%、「家族・親族の協力」22.9%という意見が多かった。

主介護者の離職経験（複数回答）

	人数	常勤職を辞めた	非常勤・パートの職を辞めた	辞めた経験はない	わからない無回答
総数	370	12.6%	6.3%	80.5%	0.9%
要介護1	109	10.1%	2.8%	86.2%	1.8%
要介護2	98	10.2%	3.1%	85.7%	1.0%
要介護3	61	11.5%	8.2%	77.0%	3.3%
要介護4	50	16.0%	12.0%	73.5%	0.0%
要介護5	52	19.2%	11.3%	69.2%	1.8%



注1) 主介護者がいない人や親族以外が主介護者である人は除外した。

注2) そもそも収入のある仕事をしていなかった人は除外した。

（介護による離職経験がある場合）仕事を続けるために必要な支援や制度（複数回答）

	人数	介護休業制度	自宅で勤務できる制度	勤務時間を短縮できる制度	上司や同僚の理解	家族・親族の協力	ホームヘルパー	通所サービス	ショートステイ	施設や病院の入所・入院	その他
総数	70	22.9%	27.1%	17.1%	17.1%	22.9%	8.5%	14.1%	7.2%	26.1%	18.8%
要介護1	14	21.4%	42.9%	21.4%	21.4%	21.4%	14.3%	21.4%	0.0%	14.3%	14.3%
要介護2	13	15.4%	7.1%	23.1%	15.4%	42.9%	7.1%	7.1%	15.4%	15.4%	35.7%
要介護3	13	30.8%	23.1%	7.7%	7.7%	8.3%	7.7%	7.7%	0.0%	38.5%	8.3%
要介護4	14	35.7%	23.1%	28.6%	28.6%	14.3%	7.1%	14.3%	15.4%	23.1%	15.4%
要介護5	16	12.5%	37.5%	6.3%	12.5%	25.0%	6.3%	18.8%	6.3%	37.5%	18.8%

注) 離職経験がある人へのみ質問した。

(3) 副介護者

問 50 「主にしている人」以外で、〇〇さん(要介護認定者)のお世話や家事を最もよく手伝っている方を、一人だけあげてください。

(手伝っている方がいる場合)

問 51 お世話を「最もよく手伝っている人」の性別を教えてください。

問 52 「最もよく手伝っている人」の年齢はおいくつですか。

問 53 「最もよく手伝っている人」は、〇〇さんと一緒に住んでいますか。離れて住んでいる場合は、ふだん使っている交通手段でどのくらいの時間がかかりますか。

問 54 この1ヵ月間に「最もよく手伝っている人」は、〇〇さんのお世話をどの程度なさいましたか。

問 55 「最もよく手伝っている人」は、現在、収入のある仕事をしていますか。複数の仕事をしている場合は、主な仕事についてお答えください。

介護を手伝ってくれる副介護者が「いない(主介護者がいない人も含む)」が 44.1%で、平成 25 年(37.7%)より増加しているが、平成 28 年(47.2%)よりは減少していた。副介護者は、「娘(配偶者あり/なし)」が 16.9%と最も割合が高く、次いで「息子(配偶者あり/なし)」13.2%であった。要介護度が重くなると「施設職員」の割合が増加した。

副介護者の性別は、「女性」が 61.2%であった。

副介護者の年齢階級は、「65 歳以上」が 23.0%であった。

副介護者が要介護認定者と「同居」している場合が 34.3%で、平成 25 年(47.9%)、平成 28 年(38.1%)と比べて減少傾向にあった。

「毎日かかりきり」で介護している副介護者は 2.9%で、平成 25 年(3.6%)、平成 28 年(2.4%)と同程度であった。「かかりきりではないが、ほぼ毎日」は 18.3%で、平成 25 年(22.0%)や平成 28 年(24.8%)より、やや減少していた。

副介護者の就労状況は、「常勤」が 37.0%と最多で、「収入のある仕事はしていない」は 35.0%であった。

副介護者の続柄

	人数	配偶者	息子 (配偶者あり)	息子 (配偶者なし)	娘 (配偶者あり)	娘 (配偶者なし)	息子の妻 (嫁)	その他の親族	ヘルパー	施設職員	その他	副介護者は いない
総数	620	1.0%	9.1%	4.1%	12.9%	4.0%	5.5%	6.7%	3.5%	8.1%	0.9%	44.1%
要介護1	207	0.0%	8.1%	2.9%	12.9%	2.4%	6.7%	8.1%	4.3%	2.9%	1.0%	50.7%
要介護2	157	0.7%	12.7%	3.8%	13.4%	3.2%	5.7%	5.7%	1.9%	3.2%	0.6%	49.0%
要介護3	92	1.1%	11.0%	4.4%	15.4%	4.4%	4.4%	5.5%	1.1%	13.2%	1.1%	38.5%
要介護4	85	3.5%	8.1%	10.5%	11.6%	5.8%	3.5%	7.0%	5.8%	15.1%	1.2%	27.9%
要介護5	79	1.3%	3.8%	1.3%	10.3%	7.7%	5.1%	7.7%	3.8%	17.9%	0.0%	41.0%

注) 副介護者がいない人の中には、「主介護者はいない」と回答した人も含む。

副介護者の性別

	人数	男性	女性
総数	269	38.8%	61.2%
要介護1	85	33.9%	66.1%
要介護2	70	45.9%	54.1%
要介護3	43	37.9%	62.1%
要介護4	42	47.2%	52.8%
要介護5	29	25.6%	74.4%

注) 主介護者・副介護者がいない人や親族以外が副介護者である人は除外した。

副介護者の年齢階級

	人数	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80歳 以上	無回答
総数	269	1.6%	6.4%	17.8%	36.4%	13.8%	12.7%	5.2%	3.3%	1.8%	0.9%
要介護1	85	1.8%	5.3%	16.1%	39.3%	8.9%	17.9%	3.6%	5.3%	0.0%	1.8%
要介護2	70	0.0%	9.8%	19.7%	36.1%	14.8%	11.5%	4.9%	1.6%	1.6%	0.0%
要介護3	43	1.7%	5.2%	17.2%	32.8%	17.2%	13.8%	6.9%	1.7%	3.4%	0.0%
要介護4	42	0.0%	3.8%	15.1%	37.7%	17.0%	5.7%	9.4%	5.7%	3.8%	1.9%
要介護5	29	7.0%	7.0%	23.3%	32.6%	16.3%	9.3%	2.3%	0.0%	2.3%	0.0%

注) 主介護者・副介護者がいない人や親族以外が副介護者である人は除外した。

副介護者と要介護認定者の同別居

	人数	同居	片道15分 未満	片道15分～ 1時間未満	片道1～ 2時間未満	片道2時間 以上	無回答
総数	269	34.3%	23.0%	25.6%	13.9%	2.4%	0.9%
要介護1	85	37.5%	16.1%	21.4%	19.6%	3.6%	1.8%
要介護2	70	34.4%	31.1%	26.2%	6.6%	1.6%	0.0%
要介護3	43	36.2%	27.6%	25.9%	10.3%	0.0%	0.0%
要介護4	42	28.3%	15.1%	26.4%	24.5%	3.8%	1.9%
要介護5	29	30.2%	27.9%	34.9%	4.7%	2.3%	0.0%

注) 主介護者・副介護者がいない人や親族以外が副介護者である人は除外した。

副介護者の介護程度

	人数	毎日 かかりきり	かかりきり ではないが 毎日	週に3～5 日くらい	週に1～2 日くらい	それより 少ない	お世話は していない	無回答
総数	269	2.9%	18.3%	6.7%	24.0%	34.5%	12.7%	0.9%
要介護1	85	0.0%	19.6%	3.6%	25.0%	39.3%	10.7%	1.8%
要介護2	70	1.6%	18.0%	8.2%	26.2%	32.8%	13.1%	0.0%
要介護3	43	5.2%	19.0%	8.6%	34.5%	24.1%	8.6%	0.0%
要介護4	42	5.7%	17.0%	1.9%	11.3%	37.7%	24.5%	1.9%
要介護5	29	7.0%	16.3%	16.3%	18.6%	34.9%	7.0%	0.0%

注) 主介護者・副介護者がいない人や親族以外が副介護者である人は除外した。

副介護者の就労状況

	人数	常勤 週30時間 以上	パート 週30時間 未満	自営業 毎日かなり の時間	自営業 毎日わずか な時間	自営業 週に1～2 日程度	収入のある 仕事はして いない	無回答
総数	269	37.0%	15.6%	7.2%	2.0%	2.4%	35.0%	0.9%
要介護1	85	35.7%	16.1%	5.4%	0.0%	0.0%	41.1%	1.8%
要介護2	70	42.6%	13.1%	6.6%	6.6%	4.9%	26.2%	0.0%
要介護3	43	39.7%	13.8%	5.2%	1.7%	3.4%	36.2%	0.0%
要介護4	42	32.1%	17.0%	9.4%	0.0%	1.9%	37.7%	1.9%
要介護5	29	30.2%	20.9%	13.9%	0.0%	2.3%	32.6%	0.0%

注) 主介護者・副介護者がいない人や親族以外が副介護者である人は除外した。

(4) 副副介護者

問 56 「主にしている人」と「最もよく手伝っている人」以外に、日常的に〇〇さん（要介護認定者）のお世話や家事を手伝っている人がいますか。

（手伝っている方がいる場合）

副問 その方はどなたですか。〇〇さんからみた続柄でお答えください。（複数回答）

副介護者以外にも介護を手伝ってくれる「副副介護者」については、「副副介護者がいない（主介護者/副介護者がいない場合も含む）」という人が75.6%であった。要介護度が軽度であるほど、「副副介護者がいない」人の割合は高かった。

「副副介護者がいない（主介護者/副介護者がいない場合も含む）」人の割合は、平成25年は75.5%、平成28年は75.6%であり、同程度の水準で推移していた。

副副介護者として多かったのは、親族では「息子(配偶者あり)」5.2%、「娘(配偶者あり)」4.0%、「息子の妻(嫁)」4.4%であった。親族以外では「施設職員」が10.2%と多かった。

副副介護者 （複数回答）

	人数	配偶者	息子 (配偶者あり)	息子 (配偶者なし)	娘 (配偶者あり)	娘 (配偶者なし)	息子の妻 (嫁)	その他の親族	ヘルパー	施設職員	その他	副副介護者は いない
総数	620	0.6%	5.2%	2.1%	4.0%	0.6%	4.4%	7.1%	2.3%	10.2%	1.8%	75.6%
要介護1	207	0.0%	5.3%	1.0%	1.0%	0.0%	4.3%	5.3%	2.9%	3.8%	0.0%	82.6%
要介護2	157	0.6%	3.8%	3.2%	8.3%	0.6%	3.8%	8.3%	1.3%	1.9%	3.2%	77.7%
要介護3	92	1.1%	4.3%	3.3%	4.4%	2.2%	4.4%	8.7%	2.2%	17.6%	2.2%	67.4%
要介護4	85	1.2%	7.1%	2.4%	2.4%	0.0%	3.5%	3.5%	2.4%	22.4%	2.3%	72.9%
要介護5	79	1.3%	6.3%	1.3%	5.1%	1.3%	6.3%	11.4%	2.6%	21.8%	2.5%	65.4%

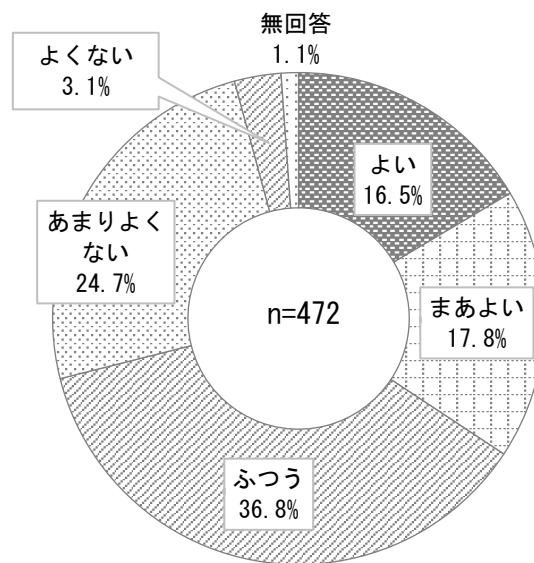
注) 副副介護者がいない人の中には、「主介護者はいない/副介護者はいない」と回答した人も含む。

(5) 健康度自己評価

問 57 あなたの現在の健康状態はいかがですか。

介護者の健康度自己評価は、「よい」16.5%、「まあよい」17.8%、「ふつう」36.8%、「あまりよくない」24.7%、「よくない」3.1%であった。「よい/まあよい」の割合は、平成25年は35.9%、平成28年は36.8%で、今回は34.3%であったことから、概ね同程度で推移していた。

介護されている高齢者の要介護度別にみると、要介護1の高齢者の介護者では「よい/まあよい」が35.7%であったのに対して、要介護5の高齢者の介護者では29.9%で、概して高齢者の要介護度が重いほど、介護者の健康度自己評価は悪くなる傾向が見られた。



健康度自己評価

注) 家族・親族が介護者である場合に限定

介護者の健康度自己評価

	人数	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
総数	472	16.5%	17.8%	36.8%	24.7%	3.1%	1.1%
要介護1	127	19.0%	16.7%	36.9%	23.8%	1.2%	2.4%
要介護2	117	22.8%	21.8%	35.6%	17.8%	2.0%	0.0%
要介護3	79	15.0%	15.9%	33.6%	33.6%	1.9%	0.0%
要介護4	76	8.3%	15.6%	36.5%	27.1%	9.4%	3.1%
要介護5	73	12.1%	17.8%	42.1%	25.2%	2.8%	0.0%

注) 家族・親族が介護者である場合に限定

(6) こころの状態

問 58 近ごろ、あなたは次のように感じることはありませんか。(1 つずつ質問)

- (1) 神経過敏に感じましたか
- (2) 絶望的だと感じましたか
- (3) そわそわしたり、落ち着きなく感じましたか
- (4) 気分が沈みこんで、何が起ころうとも気が晴れないように感じましたか
- (5) 何をやるのも骨折りだと感じましたか
- (6) 自分は価値のない人間だと感じましたか

こころの状態に関する設問について「いつも/たいてい」と答えた人の割合が高かったのは、「神経過敏」が 11.4%と最多で、次いで「骨折り」9.4%、「抑うつ」8.7%であった。

この 6 項目を加算した K6 という指標は、抑うつ傾向を把握する指標として広く用いられており、得点が高いほど気分・不安障害やうつの傾向が強いことを表す。

要介護認定者の介護者では、気分・不安障害の問題がないと考えられる「0～4 点」の人は 63.8%、気分・不安障害の可能性が疑われる「5 点以上」の人は 34.9%、気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じているとされる「10 点以上」は 12.6%であった。

「5 点以上」の割合は、平成 25 年は 28.4%、平成 28 年は 38.4%で、年によって変動があるものの、概ね 3 割程度で推移していた。「10 点以上」の割合は、平成 25 年は 7.3%、平成 28 年は 16.4%で、概ね 1 割程度で推移していた。

「10 点以上」の割合は、要介護 3 の高齢者の介護者で 17.8%と、最も割合が高かった。

介護者のこころの状態

	人数	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	まったく ない	無回答
神経過敏	472	6.6%	4.8%	17.6%	19.5%	49.8%	1.8%
絶望感	472	1.7%	1.6%	8.5%	19.5%	67.5%	1.2%
落ち着きのなさ	472	1.0%	1.8%	10.3%	16.1%	69.3%	1.4%
抑うつ	472	3.7%	5.0%	17.0%	20.2%	53.0%	1.2%
骨折り	472	4.8%	4.6%	17.9%	21.3%	50.1%	1.2%
無価値感	472	1.9%	1.1%	5.7%	9.7%	80.4%	1.2%

注) 家族・親族が介護者である場合に限定

介護者のうつ傾向 (K6区分)

	人数	0～4 点	5～9 点	10～14 点	15 点以上	不明
総数	472	63.8%	22.3%	9.3%	3.3%	1.2%
要介護1	127	69.0%	19.0%	7.1%	2.4%	2.4%
要介護2	117	61.4%	25.7%	8.9%	4.0%	0.0%
要介護3	79	60.7%	21.5%	15.0%	2.8%	0.0%
要介護4	76	61.5%	27.1%	8.3%	2.1%	1.0%
要介護5	73	64.5%	18.7%	8.4%	5.6%	2.8%

注) 家族・親族が介護者である場合に限定

(7) 介護負担感

問 59 お世話を続けていく中で次のような問題があなたにどの程度あてはまりますか。

((1)～(8)について1つずつ質問)

- (1) お世話で疲れて、からだの調子が良くない
- (2) お世話で、精神的にまいってしまう
- (3) お世話のために(あなたが)仕事に出られない／よい仕事につけない／家業が思うようにやれない
- (4) お世話のために(あなたが)育児や家族の世話に思うように手がまわらない
- (5) ○○さん(要介護認定者)のことが気になって、昼間(あなたが)思うように外出できない
- (6) お世話のために、昼間(あなたが)趣味や学習活動などをする「自由な時間」を思うようにとれない
- (7) お世話のことで、家族・親戚と意見があわない
- (8) お世話のために経済的負担が大きい

介護の主観的な負担感をたずねる設問について「非常にあてはまる」「少しあてはまる」の合計が多い項目を順に示すと、「自由な時間を思うようにとれない」39.9%、「精神的にまいってしまう」39.0%、「昼間、思うように外出できない」37.9%、「からだの調子が良くない」37.5%であった。これらの項目の該当者は、平成25年・平成28年の調査結果と比べて、全体的に減少していた。

介護されている高齢者の介護度別では、「からだの調子が良くない」や「経済的負担が大きい」については、要介護度が重くなるほど「非常に/少しあてはまる」の割合が高くなる傾向がみられた。「精神的にまいってしまう」「昼間外出できない」に関しては、要介護3で「非常に/少しあてはまる」の割合が高かった。

介護負担感（「非常にあてはまる」「少しあてはまる」を合計した割合）

	人数	からだの調子が良くない	精神的にまいってしまう	仕事に出られない	育児や家族の世話に支障	昼間外出できない	自由時間をとれない	家族・親戚と意見不一致	経済的負担が大きい
総数	472	37.5%	39.0%	23.0%	13.1%	37.9%	39.9%	10.7%	33.7%
要介護1	127	33.3%	32.1%	20.2%	13.1%	35.7%	36.9%	13.1%	19.1%
要介護2	117	36.6%	40.6%	22.8%	11.9%	37.6%	44.6%	8.9%	30.7%
要介護3	79	41.1%	48.6%	24.3%	12.1%	44.9%	41.1%	8.4%	42.1%
要介護4	76	39.6%	41.7%	27.1%	13.6%	35.4%	36.5%	9.4%	46.9%
要介護5	73	40.2%	35.5%	22.4%	15.9%	37.4%	40.2%	13.1%	41.1%

注) 家族・親族が介護者である場合に限定

(8) 自由時間

- 問 60 あなたが趣味など自分のために使える時間はどのくらいですか。1日の平均でお答えください。
- 問 61 あなたは、友人や知人、親戚の方と会ったり、一緒に出かけることが、どのくらいありますか。
- 問 62 あなたは、自治会、町内会、趣味や宗教のグループ、その他のクラブやグループ活動などに何回くらい出かけていますか。

介護者が自分のために使える時間は、「まったくない」が18.3%と最多であったが、「5時間以上」も17.7%と同程度に多かった。「2時間以下」の人が55.3%を占めていたが、この割合は、平成25年(60.5%)や平成28年(61.2%)より、やや減少していた。

友人等との交流頻度は、「まったくない」または「月に1回未満」という人が47.2%を占めた。この割合は、平成25年(45.9%)や平成28年(45.8%)と同程度であった。

趣味などのグループ活動への参加頻度は、「まったくない」が64.5%を占めた。この割合は、平成25年(58.2%)や平成28年(61.5%)よりも増加していた。

友人等との交流や社会活動への参加頻度は、要介護3の高齢者の介護者で、「まったくない」の割合が高かった。

介護者が「自分のために使える時間」(1日の平均)

	人数	まったくない	1時間未満	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間以上	無回答
総数	472	18.3%	11.0%	9.8%	16.2%	17.4%	7.6%	17.7%	1.9%
要介護1	127	14.3%	16.7%	10.7%	13.1%	21.4%	3.6%	15.5%	4.8%
要介護2	117	20.8%	8.9%	6.9%	17.8%	18.8%	10.9%	15.8%	0.0%
要介護3	79	18.7%	6.5%	11.2%	19.6%	15.0%	8.4%	20.6%	0.0%
要介護4	76	16.7%	9.4%	14.6%	16.7%	12.5%	10.4%	16.7%	3.1%
要介護5	73	22.4%	11.2%	6.5%	15.0%	15.9%	5.6%	22.4%	0.9%

注) 家族・親族が介護者である場合に限定

介護者の「友人等との交流頻度」

	人数	週に2回以上	週に1回くらい	月に2～3回	月に1回くらい	月に1回未満	まったくない	無回答
総数	472	6.6%	11.8%	14.9%	18.4%	23.5%	23.7%	1.1%
要介護1	127	8.3%	10.7%	19.0%	11.9%	23.8%	23.8%	2.4%
要介護2	117	4.0%	10.9%	15.8%	19.8%	24.8%	24.8%	0.0%
要介護3	79	5.6%	7.5%	11.2%	23.4%	24.3%	28.0%	0.0%
要介護4	76	3.1%	13.5%	15.6%	20.8%	25.0%	19.8%	2.1%
要介護5	73	12.1%	17.8%	9.3%	19.6%	18.7%	21.5%	0.9%

注) 家族・親族が介護者である場合に限定

介護者の「グループ活動（趣味活動など）への参加頻度」

	人数	週に2回以上	週に1回くらい	月に2～3回	月に1回くらい	月に1回未満	まったくない	無回答
総数	472	3.4%	8.2%	6.2%	8.4%	8.0%	64.5%	1.3%
要介護1	127	3.6%	10.7%	7.1%	10.7%	6.0%	59.5%	2.4%
要介護2	117	4.0%	7.9%	3.0%	8.9%	6.9%	69.3%	0.0%
要介護3	79	0.9%	6.5%	4.7%	4.7%	12.1%	71.0%	0.0%
要介護4	76	2.1%	9.4%	8.3%	8.3%	9.4%	59.4%	3.1%
要介護5	73	6.5%	4.7%	9.3%	7.5%	7.5%	63.6%	0.9%

注) 家族・親族が介護者である場合に限定

(9) 社会的支援

- 問 63 次の人たちは、どのくらい介護に関する相談にのってくれたり、情報を提供してくれますか。
- 問 64 介護以外のことも含めて、あなたに心配ごとや困りごとがあるとき、次の人たちはどのくらい相談にのってくれますか。
- 問 65 日頃の生活でちょっとした手助けが必要なとき、次の人たちはどのくらい手助けをしてくれますか。
- 問 66 次の人たちが、あなたに多くを要求しすぎていると感じることがどのくらいありますか。
- ((1)～(4)について1つずつ質問)
- (1) あなたの同居の家族
 - (2) 別居の家族や親族
 - (3) 知人・友人・近隣の人
 - (4) 医療・福祉の専門職

「介護に関する相談や情報の提供をしてくれる人（情動的支援）」は、「医療・福祉の専門職」が64.9%と最も多く、次いで「別居の家族や親族」が47.3%、「同居の家族」が43.4%、「知人・友人・近隣」が22.6%という順であった。平成25年は、「同居家族」48.0%、「別居親族」46.6%、「知人・友人・近隣」26.6%、「専門職」70.3%で、平成28年は「同居家族」44.2%、「別居親族」55.1%、「知人・友人・近隣」24.7%、「専門職」65.9%であり、「同居家族」「知人・友人・近隣」「専門職」からの情動的支援が、若干減少傾向であった。

「心配ごとや困りごとの相談にのってくれる人（情緒的支援）」については、「別居の家族や親族」が46.9%と最も多く、次いで「同居の家族」45.0%、「知人・友人・近隣」30.1%、「専門職」25.9%という順であった。平成25年は、「同居家族」49.0%、「別居親族」45.1%、「知人・友人・近隣」31.2%、「専門職」35.1%で、平成28年は「同居家族」46.2%、「別居親族」54.2%、「知人・友人・近隣」26.7%、「専門職」31.3%であり、「同居家族」と「専門職」からの情緒的支援が減少傾向であった、

「日常生活の手助け（手段的支援）」については、「同居の家族」が42.9%と最も多く、次いで「別居の家族や親族」39.9%、「知人・友人・近隣」13.9%、「専門職」13.4%という順であった。平成25年は、「同居家族」49.1%、「別居親族」34.4%、「知人・友人・近隣」14.2%、「専門職」18.4%で、平成28年は、「同居家族」45.0%、「別居親族」42.9%、「知人・友人・近隣」11.0%、「専門職」16.1%であり、「同居家族」や「専門職」からの手段的支援が減少傾向であった。

支援とは逆に、「周囲の人から過剰な要求をされていると感じることがあるか否か」については、「同居の家族」から過剰な要求をされていると感じている介護者は13.3%、「別居の家族や親族」からは7.5%であった。以前の調査結果と概ね同程度であった。

介護者の社会的支援（「かなりある」「いくらかある」を合計した割合）

		人数	同居の家族	別居の 家族・親族	知人・友人・ 近隣の人	医療・福祉の 専門職
情 報 的 支 援	総数	472	43.4%	47.3%	22.6%	64.9%
	要介護1	127	42.9%	50.0%	19.0%	64.3%
	要介護2	117	40.6%	53.5%	27.7%	65.3%
	要介護3	79	47.7%	41.1%	21.5%	63.5%
	要介護4	76	43.8%	44.8%	20.8%	63.5%
	要介護5	73	43.9%	42.1%	23.4%	68.2%
情 緒 的 支 援	総数	472	45.0%	46.9%	30.1%	25.9%
	要介護1	127	47.6%	53.6%	23.8%	29.8%
	要介護2	117	40.6%	52.5%	39.6%	22.8%
	要介護3	79	49.5%	35.5%	21.5%	27.1%
	要介護4	76	42.7%	42.7%	34.4%	22.9%
	要介護5	73	44.9%	43.0%	30.8%	26.2%
手 段 的 支 援	総数	472	42.9%	39.9%	13.9%	13.4%
	要介護1	127	41.7%	41.7%	11.9%	15.5%
	要介護2	117	38.6%	42.6%	19.8%	5.9%
	要介護3	79	46.7%	35.5%	11.2%	15.0%
	要介護4	76	44.8%	40.6%	14.6%	15.6%
	要介護5	73	45.8%	36.4%	10.3%	17.8%
過 剰 要 求	総数	472	13.3%	7.5%	1.7%	2.4%
	要介護1	127	10.7%	8.3%	2.4%	3.6%
	要介護2	117	14.9%	7.9%	0.0%	2.0%
	要介護3	79	12.1%	6.5%	1.9%	1.9%
	要介護4	76	16.7%	6.3%	1.0%	1.0%
	要介護5	73	13.1%	7.5%	3.7%	2.8%

注）家族・親族が介護者である場合に限定

(10) 介護による燃え尽き感・利得感

問 67 あなたの最近の状態や感じ方について、次のようなことが、どのくらいあてはまりますか。(1)～(12)について1つずつ質問)

- (1) お世話をすることで、充実感を感じる (利得感)
- (2) 一日のお世話が終わると、疲れ果てたと感じる (燃え尽き感)
- (3) お世話をうまくしてきていると思う (利得感)
- (4) お世話で〇〇さんと一緒に過ごすのは気を使うし、骨がおれると感じる (燃え尽き感)
- (5) 朝起きて、また今日も一日お世話かと思うと、疲れを感じる (燃え尽き感)
- (6) 〇〇さんはお世話していることを感謝していると思う (利得感)
- (7) お世話で燃え尽きてしまったと感じる (燃え尽き感)
- (8) お世話することで〇〇さんと気持ちが通じ合うように感じる (利得感)
- (9) お世話をされていてイライラを感じる (燃え尽き感)
- (10) 自分でお世話できる限界まできたと感じる (燃え尽き感)
- (11) 〇〇さんが気持ちがいいときには、うれしい気持ちになる (利得感)
- (12) お世話に精をだしすぎていると感じる (燃え尽き感)

介護者の「燃え尽き感(情緒的消耗)」を調べる項目のうち、「非常にあてはまる」「かなりあてはまる」の合計の割合が高かったのは、「お世話をされていてイライラを感じる」25.6%、「一日のお世話が終わると、疲れ果てたと感じる」24.4%であった。

燃え尽き感に関する項目を用いて算出した「燃え尽き感(情緒的消耗)」尺度の平均値は、9.10(標準偏差 6.41)であった。平成25年の平均値は9.58で、平成28年は10.07であり、概ね同程度の水準で推移していた。

要介護度別にみると、要介護3や要介護2の高齢者の介護者で「燃え尽き感」の平均値が高かった。これは、平成25年や平成28年の調査でも、同様の結果であった。

介護による「利得感(ポジティブ感情)」を調べる項目のうち、「非常にあてはまる」「かなりあてはまる」の割合が高かったのは、「〇〇さん(要介護認定者)が気持ちがいいときには、うれしい気持ちになる」53.9%、「〇〇さんはお世話していることを感謝していると思う」42.0%、「お世話をうまくしてきていると思う」33.4%であった。「燃え尽き感」に関する項目よりも「利得感」に関する項目の方が、「非常にあてはまる」「かなりあてはまる」の割合が高かった。

介護による燃え尽き感

	非常に あてはまる	かなり あてはまる	まあまあ あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
一日のお世話が終わると 疲れ果てたと感じる	10.2%	14.2%	21.8%	31.7%	19.1%	2.9%
一緒に過ごすのは気を使う し、骨がおれると感じる	5.2%	12.0%	21.5%	33.7%	25.1%	2.6%
また今日も一日お世話か と思うと疲れを感じる	6.7%	7.2%	14.6%	36.5%	31.7%	3.2%
お世話で燃え尽きてしまっ たと感じる	2.6%	4.5%	8.4%	40.0%	41.4%	3.2%
お世話をしていてイライラ を感じる	10.3%	15.3%	23.7%	25.7%	22.4%	2.6%
自分でお世話できる限界ま できたと感じる	5.9%	8.3%	13.3%	38.6%	31.0%	2.9%
お世話を精をだしすぎてい るを感じる	3.8%	9.0%	18.6%	43.4%	22.6%	2.6%

注) 家族・親族が介護者である場合に限定 (n=472)

介護による燃え尽き感（情緒的消耗）尺度の平均値

	人数	平均値	標準偏差
総数	459	9.10	6.41
要介護 1	123	8.67	5.13
要介護 2	115	9.42	6.52
要介護 3	78	10.08	7.23
要介護 4	73	8.50	6.88
要介護 5	70	8.89	6.81

注) 家族・親族が介護者である場合に限定。無回答者は除外した。

介護による利得感

	非常に あてはまる	かなり あてはまる	まあまあ あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
お世話をする事で、充実 感を感じる	4.5%	10.6%	28.6%	37.6%	15.8%	2.9%
お世話をうまくしてきてい ると思う	11.2%	22.2%	41.5%	15.5%	6.4%	3.2%
〇〇さんはお世話している ことを感謝していると思う	18.0%	24.0%	30.4%	13.8%	9.7%	4.0%
お世話することで気持ちが 通じ合うように感じる	8.7%	18.9%	35.1%	22.9%	10.9%	3.5%
〇〇さんが気持ちがいい時 は、うれしい気持ちになる	26.1%	27.8%	32.3%	5.9%	5.1%	2.8%

注) 家族・親族が介護者である場合に限定 (n=472)

(11) 住居、暮らし向き、年収等

- 問 68 ○○さん(要介護認定者)のお住まいは、次のどれにあたりますか。ご本人が現在、入院、入所されている場合は、ご自宅にいたときのお住まいをお答えください。
- 問 69 あなたの暮らし向きは、全般的にどれにあたりますか。
- 問 70 ○○さんご本人と配偶者の方をあわせて、昨年1年間の収入は、おいくらくらいになりますか。一時的な収入は除いてお答えください。配偶者がいない場合は、○○さんご自身の収入でお答えください。
- 問 71 あなたのお宅全体の、昨年1年間の収入は、おいくらくらいになりますか。一時的な臨時収入は除いてお答えください。
- 問 72 あなたが最後に出られた学校は、どれですか。

要介護認定者の住居は、「持家(戸建て)」が66.4%と最多で、次いで「公営住宅」11.3%であった。平成25年や平成28年と同様の結果であった。

介護者の暮らし向きは、「かなり苦しい」4.9%、「やや苦しい」13.7%で、要介護認定者がいる世帯の18.6%が経済的に苦しいと感じていた。「かなり/やや苦しい」と感じていた介護者は、平成25年は26.5%、平成28年は22.5%であり、減少する傾向がみられた。

要介護度別にみると、「かなり/やや苦しい」の割合は、要介護1の高齢者がいる世帯では11.1%、要介護2で20.9%、要介護3で24.6%、要介護4で21.8%、要介護5では23.9%であり、要介護2～5の高齢者がいる世帯で経済的に苦しいと感じている人が多い。

要介護認定者の世帯年収は、「120～240万円未満」が最多で27.7%、次いで「120万円未満」17.4%、「240～360万円未満」16.5%であった。

介護者の世帯年収は、「120～240万円未満」が最多で18.5%、次いで「360～480万円未満」12.5%、「240～360万円未満」12.3%であった。

回答者の最終学歴は、「大学・大学院卒」が33.4%と最多で、次いで「高校卒」で32.4%であった。

要介護認定者の住居（現在、入院・入所している場合は、自宅にいたときの住居）

	人数	持家 (戸建て)	持家 (分譲 マンション等)	公営住宅	公社・UR (賃貸)	民間借家 (マンション、 戸建て)	民間借家 (アパート、 長屋建)	その他
総数	620	66.4%	8.6%	11.3%	4.6%	2.4%	4.9%	1.8%
要介護1	207	69.3%	4.4%	11.7%	7.3%	1.5%	5.1%	0.7%
要介護2	157	63.2%	11.8%	14.0%	2.2%	1.5%	5.1%	2.1%
要介護3	92	66.9%	8.1%	9.7%	5.6%	4.0%	3.2%	2.4%
要介護4	85	63.0%	13.9%	11.1%	0.9%	3.7%	4.6%	2.8%
要介護5	79	67.8%	8.7%	7.0%	5.2%	3.5%	6.1%	1.8%

介護者の暮らし向き

	人数	かなり 苦しい	やや 苦しい	ふつう	やや余裕 がある	余裕が ある	わからない 無回答
総数	604	4.9%	13.7%	68.0%	6.8%	4.7%	1.8%
要介護1	205	2.2%	8.9%	74.1%	8.1%	4.4%	2.2%
要介護2	154	6.7%	14.2%	66.4%	7.5%	5.2%	0.0%
要介護3	90	4.9%	19.7%	60.7%	6.6%	6.6%	1.6%
要介護4	80	5.0%	16.8%	67.3%	3.0%	4.0%	4.0%
要介護5	75	8.3%	15.6%	64.2%	6.4%	2.8%	2.8%

注) 家族・親族または要介護認定者本人が回答している場合に限定

要介護認定者の世帯年収

人数	120万円 未満	120～240 万円未満	240～360 万円未満	360～480 万円未満	480～600 万円未満	600～720 万円未満	720～840 万円未満	840万円 以上	無回答
604	17.4%	27.7%	16.5%	9.0%	3.5%	1.1%	1.3%	1.8%	21.6%

注) 家族・親族または要介護認定者本人が回答している場合に限定

介護者の世帯年収

人数	120万円 未満	120～240 万円未満	240～360 万円未満	360～480 万円未満	480～600 万円未満	600～720 万円未満	720～840 万円未満	840万円 以上	無回答
604	7.5%	18.5%	12.3%	12.5%	7.4%	3.5%	2.9%	6.7%	28.7%

注) 家族・親族または要介護認定者本人が回答している場合に限定

回答者の学歴

人数	学校へは 行かなかった	中学校卒	高校卒	短大 高専卒	大学 大学院卒	無回答
604	0.4%	10.9%	32.4%	19.6%	33.4%	3.4%

注) 家族・親族または要介護認定者本人が回答している場合に限定

6 結果の概要と今後の課題

(1) 要介護認定者/介護者のサービスニーズや生活の経年変化から見える課題

平成25年、平成28年に実施した調査の結果と、今年度（令和元年）に実施した調査の結果を比較し、要介護認定者や家族介護者のサービスニーズや生活等の変化を調べた。なお、各調査の回収状況が異なるため、調査結果の単純な比較には一定の注意が必要であるが、概況を把握する上での参考資料にはなり得る。

経年的に改善傾向が認められたのは、介護・医療サービスに関する項目では、ショートステイ、訪問介護サービス、通所サービス、訪問看護サービスの未利用者のうち、「利用を希望または検討」している人の割合が減少した点である。このことから、利用を希望・検討している人が、各サービスの利用につながりやすくなっている可能性がうかがえる。その他に、訪問看護、訪問診療、往診の利用率が増加傾向にあった。医療依存度の高い高齢者が在宅で療養するケースが近年、増えているため、在宅療養を支える医療・看護サービス体制の整備について、成果が得られつつあるといえる。

認知症の受診に際して、「本人が病院に行きたがらなかった」「家族が認知症と思わなくて受診が遅れた」という人の割合も減少が認められた。明確に改善傾向にあるとは言えないものの、変化に気づいてから認知症の診断を受けるまでに「3年以上」かかった人の割合も、平成28年に比べて若干低下していた。これらのことから、市民の中で認知症に関する知識や意識が高まり、早期受診が促進された可能性がある。要介護認定者の認知機能障害についても重度者の割合が軽減していたので、認知症の重度化防止に関して経年的な改善傾向が認められた。

家族介護の面でも、介護を1週間程度代わってくれる人がいないという介護者の割合が低下していた。しかし、低下傾向にあるとはいえ、半数近い介護者が、介護を1週間程度代わってくれる人がいない状況が続いているため、家族介護者への支援については、まだ課題が残っている。

一方で、改善が認められなかった項目も多数あった。介護サービスに関しては、ショートステイの満足度、訪問介護サービス及び配食サービスの利用率が低下していた。訪問介護については、要支援認定者においても利用率が低下していたことから、訪問介護員の人財不足が影響している可能性もあり、サービス供給について課題が示された。

家族に関しては、単身世帯の要介護認定者の割合が増加し、要介護認定者の28%が一人暮らしであった点に着目すべきである。介護を要する一人暮らしの高齢者の割合がこれだけ高まっている状態においては、以前のように家族介護を「含み資産」とした上での介護サービス供給体制では間に合わないことは自明である。上述のようにサービスの利用が進展しつつあるものの、一人暮らしの要介護者の生活を支える上では、サービス供給基盤について一層の拡充が求められている。

介護者については、老老介護の割合が高まるとともに、介護者が同居している割合が低下しており、家族による介護態勢の弱まりがうかがえる。介護者が、周囲の人から情動的・情緒的・手段的支援を得ている割合も低下傾向にあり、介護者に対する支援について課題が示された。

改善傾向が認められた項目

分野	項目	平成25年	平成28年	令和元年
サービス	ショートステイ未利用者のうち、「利用を希望/検討」	18.0%	15.5%	12.8%
	訪問介護サービス未利用者のうち、「利用を希望/検討」	12.5%	10.5%	7.5%
	通所サービス未利用者のうち、「利用を希望/検討」	10.8%	7.4%	6.8%
	訪問看護サービスの利用率	14.2%	15.8%	20.8%
	訪問看護サービス未利用者のうち、「利用を希望/検討」	9.2%	6.7%	6.6%
	訪問診療、往診の利用率	17.9%	17.3%	23.0%
認知症	本人が病院に行きたがらなかった	—	24.8%	18.2%
	家族が認知症と思わなくて受診が遅れた	—	23.4%	17.8%
	変化に気づいてから診断を受けるまでに3年以上	—	29.1%	26.5%
健康	認知機能障害「重度」	34.5%	29.3%	27.5%
家族	介護を1週間程度代わってくれる人が「いない」	53.4%	52.9%	48.5%
	経済的に「かなり/やや苦しい」と感じていた介護者	26.5%	22.5%	18.6%

悪化傾向が認められた項目

分野	項目	平成25年	平成28年	令和元年
サービス	ショートステイ「非常に/わりと満足」	72.9%	74.9%	65.3%
	訪問介護サービスの利用率	30.0%	28.2%	24.4%
	配食サービスの利用率	—	21.6%	15.9%
家族	要介護認定者のうち、単身世帯	18.9%	26.6%	28.3%
	主介護者は「65歳以上」	54.3%	54.1%	62.1%
	主介護者は「同居」	79.8%	69.4%	67.1%
	介護者が「同居家族」から情動的支援を得ている	48.0%	44.2%	43.4%
	介護者が「専門職」から情動的支援を得ている	70.3%	65.9%	64.9%
	介護者が「知人・友人・近隣」から情動的支援を得ている	26.6%	24.7%	22.6%
	介護者が「同居家族」から情緒的支援を得ている	49.0%	46.2%	45.0%
	介護者が「専門職」から情緒的支援を得ている	35.1%	31.3%	25.9%
	介護者が「同居家族」から手段的支援を得ている	49.1%	45.0%	42.9%
	介護者が「専門職」から手段的支援を得ている	18.4%	16.1%	13.4%

改善・悪化の傾向が認められなかった項目

分野	項目	平成25年	平成28年	令和元年
サービス	要介護認定結果「非常に/わりと満足」	79.0%	78.4%	80.0%
	ケアマネジャー「非常に/わりと満足」	90.9%	89.2%	88.5%
	ケアプラン「非常に/わりと満足」	79.0%	75.4%	79.3%
	ショートステイの利用率	27.0%	26.9%	28.3%
	訪問介護サービス「非常に/わりと満足」	86.1%	86.4%	85.6%
	通所サービスの利用率	42.9%	49.9%	46.5%
	通所サービス「非常に/わりと満足」	95.5%	91.5%	92.0%
	訪問看護サービス「非常に/わりと満足」	95.8%	93.4%	96.7%
	訪問リハビリテーションの利用率	21.3%	15.9%	21.6%
	訪問入浴介護の利用率	12.5%	12.5%	12.1%
	認知症対応型共同生活介護の利用率	2.3%	1.8%	3.2%
	小規模多機能型居宅介護の利用率	1.4%	4.7%	2.7%
	権利擁護事業の利用率	—	1.1%	1.6%
	サービス利用料の自己負担「非常に/多少負担」	49.4%	46.2%	46.2%
	特別養護老人ホームの利用意向(入所中、申請中、 すぐにでも入所を希望、入所を検討したい)	26.8%	21.2%	22.8%
	老人保健施設の利用意向 (入所中、すぐにでも入所を希望、入所を検討したい)	21.5%	17.2%	17.2%
	介護療養型医療施設・介護医療院の利用意向 (入院中、すぐにでも入院を希望、入院を検討したい)	18.7%	15.4%	14.2%
健康	身体機能障害「重度」	35.9%	35.2%	33.1%
家族	主介護者がいない	8.4%	12.8%	11.9%
	主介護者は「毎日かかりきり」で介護	31.9%	25.3%	26.4%
	主介護者は「5年以上」介護	38.1%	44.4%	43.3%
	主介護者は「仕事をしていない」	63.0%	59.6%	61.0%
	主介護者は介護のために「常勤職を辞めた」	11.7%	11.8%	12.6%
	介護を手伝ってくれる副介護者がいる	62.3%	52.8%	55.9%
	介護者の健康状態「良い/まあ良い」	35.9%	36.8%	34.3%
	気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じてい る介護者(K6:10点以上)	7.3%	16.4%	12.6%
	介護者が自分のために使える時間は、「1時間未満」	27.7%	30.0%	29.3%
	介護者の「燃え尽き感」得点の平均値	9.58	10.07	9.10

(2) 第7期介護保険事業計画の主な項目に関する現状と課題

1) 介護保険サービス等の充実

(1) 在宅サービス

全体的には、本調査で調べたサービス等に関して、利用実績と利用希望との間に大きな乖離はなかったことから、利用希望をある程度充足できているとみなせる。上述のように、各サービスの利用率や満足度も概ね維持されており、訪問看護や訪問診療等の在宅療養を支えるサービスについては増加傾向も認められた。要介護認定者に対する在宅介護サービスについては、概ね順調に実施できていると考えられる。

しかし、訪問介護に関しては、要介護・要支援認定者ともに利用率の低下がみられ、課題が残った。訪問介護員の高齢化や人財不足が問題となっているが、それが利用者にも影響を及ぼしている可能性がある。訪問介護は在宅生活を支える主要な介護サービスであるため、その供給体制について検討が必要である。

(2) 施設サービス

特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設・介護医療院への利用希望者の割合は、全体的に平成25年より減少し、平成28年と同程度であった。特養の入所申請は要介護3以上であるが、要介護1や要介護2でも入所を希望または検討している人が、それぞれ1割程度いた。単身世帯の要介護者が増加していることもあり、在宅での生活が困難になった人の生活場所の確保についても、課題が示された。

(3) 認知症施策

要介護認定者の3割は、認知症と診断されていた。要介護度が重くなるほど増え、要介護5では5割が認知症と診断されていた。しかし、今回の調査では、認知機能障害が重度の人の割合が低下していたので、重度化防止について成果があった可能性がある。変化に気づいてから認知症と診断されるまでに3年以上を要する人の割合も低下しており、診断までに経験した問題として「本人が病院に行きたがらなかった」や「家族が認知症と思わなくて受診が遅れた」という人の割合も低下していたことから、認知症に関する知識と理解を普及させるための啓発活動の成果が得られつつある。このような成果があるものの、現状においても、変化に気づいてから認知症と診断されるまでの期間が「3年以上」という人が26.5%で、半数以上の人の変化に気づいてから診断を受けるまでに「1年以上」を要していたことから、早期受診が達成されたとはいいがたい状況である。要介護度が重度の人ほど、認知症の診断までに時間を要しており、今後も早期受診の促進と、そのための啓発活動を一層推進していく必要がある。

(4) サービス利用料

要介護認定者がいる世帯においては、46.2%がサービス利用料の自己負担が家計にとって「非常に/多少負担」と答えていた。要介護度が重いほど「非常に/多少負担」の割合も増加し、要介護4では56.4%が、要介護5では61.1%がサービス利用料の自己負担が家

計にとって負担と答えていた。自己負担割合別では、「非常に/多少負担」と答えた人の割合は、「2割負担」で61.6%、「3割負担」で48.7%であった。

経済的な理由で介護保険サービスを「利用できなかった」または「時間や回数を制限した」ことのある人は、「ショートステイ」5.2%、「訪問介護」4.8%、「通所サービス」3.6%、「訪問看護」3.7%であった。「利用できなかった」または「時間や回数を制限した」割合は要介護5で多く、要介護5の人では、ショートステイや通所サービスに関して経済的な理由による利用抑制が、1割程度生じていた。

2) 安全・安心の生活の確保

(1) 一人暮らしの要介護高齢者への支援

「単身世帯」が28.3%、「夫婦二世帯」が26.8%と、介護が必要な状況であるにも関わらず、一人で、もしくは夫婦のみで生活している世帯が半数を超えていた。このような世帯の生活を支えるためのサービス供給基盤の整備について一層の検討が求められている。

(2) 在宅医療

要介護認定者の15%は何らかの医療処置が必要な状態で、特に要介護5では4割が何らかの医療処置を要していた。医療処置を家族や本人もかなり実施していたが、医療処置に関しては、5割弱の介護者が「家族が医療処置を行うのは精神的な負担が大きい」と感じていた。医療依存度が高い高齢者が、病院ではなく在宅で療養するケースが今後も増えることが予想されるため、家族への対応も含めた在宅医療の支援を普及していかなければならない。今回の調査では、訪問看護や訪問診療、往診の利用率が増加していたが、今後も在宅医療の拡充を一層推進する必要がある。

(3) 災害時の対応

介護を要する人やその家族にとって災害時の避難は重要な課題であるが、「避難行動要支援者名簿」に登録している人は19.4%と少なかった。登録希望者は21.3%いたので、このような取組について周知を図り、希望者の登録を進める必要がある。避難所についても、福祉避難所の場所を知っている人は12.8%と少なかった。福祉避難所だけでなく、一般の避難所も知らない人が37.7%いた。災害時の避難方法や避難経路、日頃の備えなどについて防災や医療・福祉の専門職から助言や指導を受けたことがある人も7.6%と少なく、「受けたことはないが、受けたい」という人は26.6%であった。要介護の高齢者の避難に関しては多くの困難を伴うことから、平時から避難場所や避難経路、避難方法などを本人や家族に認識してもらうような取組を、防災関連の部署と連携して進めていかなければならない。災害を想定した個別プランの作成も、推進していくべき課題である。

(4) 家族介護者への支援

65歳以上の介護者が62.1%で、その割合は増加し、老々介護が増えている状況であった。介護保険サービスが普及してはいるが、「毎日かかりきり」で介護している人が26.4%、

「かかりきりではないが、ほぼ毎日」が39.7%と、介護に拘束されている人が依然として多かった。特に要介護5の高齢者を介護する家族では、4割近くが介護に「毎日かかりきり」の状態であった。介護を1週間程度代わってくれる人がいない主介護者の割合は低下傾向ではあったが、依然として半数は、1週間程度介護を代わってくれる人がいない状況で、一人で多くの介護を担っていた。周囲の人から情動的・情緒的・手段的支援を得ている割合は減少傾向で、総じて介護者に対する支援が弱まっている可能性がうかがえた。気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じている介護者が1割強、自分のために使える時間は「1時間未満」の介護者が3割と、依然として介護者の負担が重い状況が続いていた。心理的な問題や介護負担感、総じて要介護3の高齢者を介護する家族で多い傾向がみられた。以上のように、家族介護者支援については、まだ多くの課題が残っていることが明らかとなった。

就労経験のある主介護者のうち、介護のために「常勤職を辞めた」経験のある人は12.6%、「非常勤・パートの職を辞めた」経験のある人は6.3%であった。要介護度が重いほど離職経験者が増加する傾向にあり、要介護5では「常勤/非常勤の職を辞めた」経験のある人が30.5%であった。離職経験者に、どのような支援や制度があれば仕事を続けることができたと思うかを質問した結果、「自宅で勤務できる制度」「施設や病院の入所・入院」「介護休業制度」という意見が多かった。これらのことから、働き方などの職場環境を整備することで、介護離職を防止できる可能性が示唆された。

